

變更ハ利害關係人ノ合意アルトキニ限リ之ヲ許ス但此合意ハ競賣
期日ニ至ルマテ之ヲ爲スコトヲ得

(解) 賣却ニ關スル諸條件ノ變更ハ利害關係人ノ合意アリタルトキハ其合意ニ從フヘキハ素ヨリ法律ノ禁スル
所ニアラス然レトモ最低價額以下ニ賣却スルカ又ハ合意ヲ爲スハ其合意競賣期日ノ後マテ許ストセハ不都合少
ナカラス何トナレハ最低價額不動産ノ價額ヲ知ル必要ヨリ鑑定人ヲシテ適當ノ評價ヲナサシメタルモノナレハ
之ヲ利害關係人ノ意思ニヨリ變更セシムヘカラサルハ勿論ナリ又ハ競賣期日前ニ許サ、ルハ一旦定リタル競賣
ヲ變更スルカ如キ不都合ナレハナリ

第六百六十三條 競賣期日ヲ開キタル後執達吏ハ執行記録ヲ各人ノ
閱覽ニ供シ又特別ノ賣却條件アルトキハ之ヲ告知シ且競買價額申
出ヲ催告ス可シ

(解) 競賣期日ヲ開キタル後執達吏ハ執行記録ヲ閱覽セシムルハ執行上ノ便宜ヲ得セシメンカ爲ナリ又特別ノ
賣却條件ヲ告知スルモノ同一ノ理由ニ出而シテ競賣價格申出ヲ催告スルハ落着ノ迅速ナルヲ欲シタルニ外ナラス

第六百六十四條 利害關係人カ或ル競買人ヨリ保證ヲ立テシメント
ヲ申立ツルトキハ其競買人カ保證トシテ競買價額十分ノ一二當ル

金額ヲ現金又ハ有價證券ヲ以テ直チニ執達吏ニ預クルトキニ非サ
レハ其競買 許サス

右申立ハ競買價額ノ申出アリタル後直チニ之ヲ述フルコトヲ要ス
其申立ハ同一ナル競買人ノ其後ノ競買ニ付テモ亦效力アリ

(解) 不動産ノ購買ヲ爲ストキ保證ヲ立テシムルノ必要ナルヲアリ此保證ヲ立ツルニ利害關係人ノ申立ニ依ルモ
ノニシテ申立テナキハ之ヲ立ツルヲ要セス而シテ其競買人ハ保證ヲ立ツルニハ競賣價額十分ノ一二當ル金額
ヲ現金又ハ有價證券ヲ以テ直チニ執達吏ニ預クルニアラサレハ競賣ヲ爲ストキ許サス之レ競買後代價ヲ支拂ハ
レサルモノアレハ再ヒ競賣ヲ爲ス等意外ノ損害ヲ受クルヲアルカ故利害關係人ヨリ保證ヲ立ツヘキヲ申立タ
ルトキハ競買人ハ必ス立テサルヘカラサルナリ

而シテ是レカ申立ヲ爲スニハ競買價格ノ申出アリタル後之ヲ申立ツルヘキモノニシテ此規定ニ反シバニ競買
申出ノ後ハ之ヲ申立ツルヲ得ス尚ホ此保證ヲ立ツルノ申立ハ競買人ニ對シ代金支拂ヲ疑フヨリ來ル者ナレ
ハ其後ノ競買ヲ爲サントスルトキニ於テモ效力アリトセリ

第六百六十五條 競買ヲ許サレタル各競買人ハ更ニ高價ノ競買ノ許
アルマテ其申出テタル價額ニ付キ拘束ヲ受クルモノトス
競賣ハ競買價額ヲ申出ツ可キ催告後滿一時間ヲ過クルニ非サレハ

之ヲ終局スルコトヲ得ス

四百十

(解)本條ニ各競買人ハ更ニ高價ノ競買ノ許アル迄其申出タル價格ニ付拘束ヲ受クヘキトセルハ競買ハ最高ノ競買者ニ於テ之ヲ買受ケルカ故ニ更ニ高價ノ競買ヲ申立ツルマテハ現實ノ最高價競買者ニ於テ買受ノ責アルニ因レリ

第二項ノ規定ヲ設ケタルハ一層高價ニ競買セントスル時間ノ爲メニ妨ケラル、カ如キナ恐レテ規定シタルモノナリ

第六百六十六條 執達吏ハ最高價競買人ノ氏名及ヒ其價額ヲ呼上ケ

タル後競賣ノ終局ヲ告知ス可シ

他ノ各競買人ハ右ノ告知ニ因リ其競賣ノ責務ヲ免カレ且預ケタル保證アルトキハ即時ニ其返還ヲ求ムル權利アリ

(解)本條ハ競買終局ノ方法及ヒ結果ヲ規定シタルモノナリ

第六百六十七條 競賣ニ付キ作ルヘキ調書ニハ左ノ諸件ヲ具備スルコトヲ要ス

第一 不動産ノ表示

第二 差押債權者ノ表示

第三 執行記録ヲ各人ノ閱覽ニ供シタルコト又特別賣却條件アルトキハ之ヲ告知シタルコト

第四 競賣價額ノ申立ヲ催告シタル日時

第五 總テノ競買價額並ニ其申出ノ氏名、住所又ハ許ス可キ競買ノ申出ナキコト

第六 競賣ノ終局ヲ告知シタル日時

第七 申立ニ因リ競買ノ爲メ保證ヲ立テタルコト又ハ申立アルモ保證ヲ立テサル爲メ其競買ヲ計ササルコト

第八 最高價競買人ノ氏名及ヒ其價額ヲ呼上ケタルコト

最高價競買人及ヒ出頭シタル利害關係人ハ調書ニ署名捺印ス可シ若シ此等ノ者調書ノ作成前ニ退席シタルトキハ其旨ヲ附記ス可シ

競買ノ保證ノ爲メ預リタル金銭又ハ有價證券ヲ返還シタルトキハ
執達吏ハ受取證ヲ取り之ヲ調書ニ添付ス可シ

(解)本條ハ競賣ヲ爲スニ付キ作ルヘキ調書ニ記載スヘキ要件ヲ掲ケタルモノナリ而シテ其事項明了ナルヲ以テ
一々説明スルヲ省キ其大要ヲ説明セン

調書ニ第一號乃至第八號ノ要件ヲ記載スヘキモノトシタルハ他日競賣ノ結果ニ付キ生スルアルヘキ紛争ヲ此
調書ニ依リ證明スヘキ爲メ作タルニ過キス且又此調書ハ最モ詳細ニ記載スヘキモノナレハ各利害關係人ノ署名
捺印出席ノ有無競賣ノ爲メ預リタル保證金ノ返附請取證ノ交付等アラユル事實ヲ記載セサルヘモラス

第六百六十八條 執達吏ハ調書及ヒ總テ競買ノ保證ノ爲メ預リタル
金銭又ハ有價證券ニシテ返還セサルモノハ三日内ニ裁判所書記ニ
之ヲ渡ス可シ

(解)本條ハ競賣終結後執達吏ノ爲スヘキ行爲ヲ規定シタリ即チ執達吏ハ調書及ヒ總テ競買ノ保證ノ爲メ預リタ
ル金銭又ハ有價證券ニシテ返還セサルモノハ三日内ニ裁判所書記ニ之ヲ渡スヘシトシタルハ之レ執達吏ハ保存
ノ必要ナキニ因レリ

第六百六十九條 最高價競買人執行裁判所ノ所在地ニ住居ヲモ事務
所ヲモ有セサルトキハ其所在地ニ假住所ヲ選定シ其旨ヲ裁判所ニ

届出ツ可シ若シ之ヲ怠リタルトキハ第四百四十三條第三項ノ規定ヲ
準用ス
住所ノ選定ハ執達吏ニ口述シ其調書ヲ作ラシメテ之ヲ爲スコトヲ
得

(解)本條ハ最高價競買人裁判所ノ所在地ニ居住セサル場合ノ規定ナリ

第六百七十條 競賣期日ニ於テ許ス可キ競買價額ノ申出ナキトキハ
第六百四十九條第一項ノ規定ヲ害セサル限リハ裁判所ハ其意見ヲ
以テ最低競賣價額ヲ相當ニ低減シ新競賣期日ヲ定ム可シ若シ其期
日ニ於テ仍ホ許ス可キ競賣價額ノ申出ナキトキモ亦同シ
新競賣期日ハ少ナクトモ十四日ノ後タル可シ

(解)最低價競賣價額ハ相當ニ鑑定人ヲシテ評價ヲナサシメ不動産ノ競賣價額ノ標準ヲ定メタルモノナルモ何人
モ此評價額ニテ買受タル者ナク且ツ不動産ヲ賣却シテ其代金ヲ以テ其負擔ヲ辯濟スルニ足ル見込ミアル範圍内
ニ於テ裁判所ハ最低價額ヲ相當ニ低減シ新競賣期日ヲ定ムヘキモノトス若シ此期日ニ仍ホ許ス可キ最低價格ノ

申出ナキトキモ亦同シト規定シタルハ競買人ナキトキニ於ケル不得止規定ナリ
又新競買期日ナ十四日ノ後トシタルハ競賣ニ付キ準備スル猶豫ヲ與ヘタルモノナリ

第六百七十一條 裁判所ハ競落期日ニ出頭シタル利害關係人ニ競落ノ許可ニ付キ陳述ヲ爲サシムヘシ

競落ノ許可ニ付テノ異議ハ期日ノ終ニ至ルマテニ之ヲ申立ツ可シ
既ニ申立テタル異議ニ對スル陳述ニ付テモ亦同シ

(解)本條ハ競落ニ付キ異議ヲナシ又ハ此異議ヲ爲スヘキ時期ヲ定メタルモノナリ

第六百七十二條 競落ノ許可ニ付テノ異議ハ左ノ理由ニ基クコトヲ要ス

第一 強制執行ヲ許ス可カラサルコト又ハ執行ヲ續行ス可カラサルコト

第二 最高價競買人賣買契約ヲ取結ヒ若クハ其不動産ヲ取得スル能力ナキコト

第三 法律上ノ賣却條件ニ抵觸シテ競買ヲ爲シタルコト又ハ總テノ利害關係人ノ合意ヲ得スシテ法律上ノ賣却條件ヲ變更シタルコト

第四 競賣期日ノ公告ハ第六百五十八條ニ掲タル要件ノ記載ナキコト

第五 競賣期日ノ公告ハ法律上規定シタル方法ニ依リテ之ヲ爲ササルコト

第六 第六百五十九條ニ規定シタル期間ヲ存セサリシコト

第七 第六百六十五條第二項及ヒ第六百六十六條第一項ノ規定ニ違背シタルコト

第八 第六百六十四條ノ規定ニ違背シ最高價競買人ナリト呼上ケタルコト

(解)本條ハ競落ノ許可ニ付テノ異議ヲ申立ツル場合ヲ規定シタルモノナリ競落ノ許可ニ對スル異議ハ本條ニ記載スル第一號ヨリ八號ニ該當スルモノアレハ必ラス之ヲ根據トシテ異議ヲ爲スヲ得ルナリ

第六百七十三條 異議ハ他ノ利害關係人ノ權利ニ關スル理由ニ基テハ之ヲ許サス

(解)異議ハ他ノ利害關係人ノ權利ニ關スル理由ニ基キテ之ヲ許サルハ當然ノトニシテ本條ヲ俟テ然ルニアラス若シ夫レ利害關係人以外ノモノト雖モ異議ヲ主張スルヲ得ルトセハ殆モ關係ナキモノハ異議スルヲ得ナルヲ以テ不都合ナカラサルニ因レリ

第六百七十四條 裁判所ハ異議ノ申立ヲ正當トスルトキハ競落ヲ許サス

第六百七十二條第一號乃至第八號ニ掲ケタル事項ノ一アルトキハ職權ヲ以テモ競落ヲ許サス但第一號ノ場合ニ於テハ競賣シタル不動産カ讓渡スコトヲ得サルモノナルトキ又ハ競賣手續ノ停止ヲ爲シタルトキニ限り第二號ノ場合ニ於テハ能力若クハ資格ノ欠缺カ

除去セラレサルトキニ限り第三號ノ場合ニ於テハ利害關係人手續ノ續行ニ付キ承認セラレサルトキニ限ル

(解)本條ハ競賣ニ付テノ利害關係人ハ異議ヲ主張シタルトキ裁判所ニ於テ其申立ヲ正當ナリト決定シタル場合ニ爲スヘキ處分ヲ定メタルモノニシテ即チ裁判所ハ異議申立ヲ正當トスルトキハ競買ヲ許スヘキモノニアラス而シテ其場合ハ第六百七十二條第一號乃至第八號ニ掲ケアルテ若シ其原因ノ一ニ該當スルモノト認めタルトキハ之ヲ許サス是レ異議ナルモノハ競賣ヲ不法ニ爲シ之カ爲メ損害ヲ蒙リタルモノヨリ救正ヲ求ムルモノナレハ此異議ノ申立アルニ拘ハラズ競賣ヲ許スハ不當ナリ然レモ第六百七十二條第一號ノ場合ニ於テハ競賣シタル不動産カ讓渡スコトヲ得サルトキニ限り第二號ノ場合ニハ能力又ハ資格ノ欠缺ハ附去セラレタルトキニ限り第三號ノ場合ニ於テハ利害關係人手續ノ續行ニ付キ承認セサルトキニ限ルトシタルハ裁判所ノ職權ヲ以テ取消スヲ得サル例外ノ存スルアルカ爲ナリ

第六百七十五條 數箇ノ不動産ヲ競賣ニ付シタル場合ニ於テ或ル不動産ノ賣得金ヲ以テ各債權若ニ辨濟ヲ爲シ及ヒ強制執行ノ費用ヲ償フニ足ル可キトキハ他ノ不動産ニ付テハ競落ヲ許サス
此場合ニ於テ債務者ハ其不動産中賣却ス可キモノヲ指定スルコトヲ得

(解) 本條ハ競落ノ許可ニ付テノ異議ヲ申立ツル場合ヲ規定シタルモノナリ競落ノ許可ニ對スル異議ハ本條ニ記載スル第一號ヨリ八號ニ該當スルモノアレハ必ラス之ヲ根據トシテ異議ヲ爲スコトヲ得ルナリ

第六百七十三條 異議ハ他ノ利害關係人ノ權利ニ關スル理由ニ基テハ之ヲ許サス

(解) 異議ハ他ノ利害關係人ノ權利ニ關スル理由ニ基テ之ヲ許サルハ當然ノコトニシテ本條ヲ俟テ然ルニアラス若シ夫レ利害關係人以外ノモノト雖モ異議ヲ主張スルコトヲ得ルトセハ殆モ關係ナキモノハ異議スルコトナルヲ以テ不都合少ナカラサルニ因レリ

第六百七十四條 裁判所ハ異議ノ申立ヲ正當トスルトキハ競落ヲ許サス

第六百七十二條第一號乃至第八號ニ掲ケタル事項ノ一アルトキハ職權ヲ以テモ競落ヲ許サス但第一號ノ場合ニ於テハ競賣シタル不動産カ讓渡スコトヲ得サルモノナルトキ又ハ競賣手續ノ停止ヲ爲シタルトキニ限り第二號ノ場合ニ於テハ能力若クハ資格ノ欠缺カ

除去セラレサルトキニ限り第三號ノ場合ニ於テハ利害關係人手續ノ續行ニ付キ承認セラレサルトキニ限ル

(解) 本條ハ競賣ニ付テノ利害關係人ハ異議ヲ主張シタルトキ裁判所ニ於テ其申立ヲ正當ナリト決定シタル場合ニ爲スヘキ處分ヲ定メタルモノニシテ即チ裁判所ハ異議申立ヲ正當トスルトキハ競賣ヲ許スヘキモノニアラス而シテ其場合ハ第六百七十二條第一號乃至第八號ニ掲ケアルテ若シ其原因ノ一ニ該當スルモノト認メタルトキハ之ヲ許サス是レ異議ナルモノハ競賣ヲ不法ニ爲シ之カ爲メ損害ヲ蒙リタルモノヨリ救正ヲ求ムルモノナレハ此異議ノ申立アルニ拘ハラズ競賣ヲ許スハ不當ナリ然レモ第六百七十二條第一號ノ場合ニ於テハ競賣シタル不動産カ讓渡スコトヲ得サルトキニ限り第二號ノ場合ニハ能力又ハ資格ノ欠缺ハ附去セラレタルトキニ限り第三號ノ場合ニ於テハ利害關係人手續ノ續行ニ付キ承認セサルトキニ限ルトシタルハ裁判所ノ職權ヲ以テ取消スコトヲ得サル例外ノ存スルアルカ爲ナリ

第六百七十五條 數箇ノ不動産ヲ競賣ニ付シタル場合ニ於テ或ル不動産ノ賣得金ヲ以テ各債權若ニ辨濟ヲ爲シ及ヒ強制執行ノ費用ヲ償フニ足ル可キトキハ他ノ不動産ニ付テハ競落ヲ許サス
此場合ニ於テ債務者ハ其不動産中賣却ス可キモノヲ指定スルコトヲ得

(解) 本條ハ強制執行ハ債權者其他ノ費用ヲ償フニ非レハ停止スヘキトテ定メタリ

第六百七十六條 第六百七十二條及ヒ第六百七十四條ノ規定ニ從ヒ
全ク競落ヲ許ササル場合ニ於テ更ニ競買ヲ許ス可キトキハ職權ヲ
以テ新競賣期日ヲ定ムヘシ

新競賣期日ハ少ナクトモ十四日ノ後タル可シ

(解) 本條ハ第六百七十二條及ヒ第六百七十四條ノ規定ニ從ヒ競買ヲ許サ、ル場合ニ於テ更ニ競賣ヲ許スヘキ
時ハ職權ヲ以テ新ニ競賣期日ヲ定ムルトノ一ヲ規定シタリ之レ一旦取消サレタル競賣力更ニ行ハル、モノナレ
ハ新ナル競賣ト同一ニ取扱フトノ意ナリ從テ前ト同シク期日ニ付テモ新競賣期日ノ少ナクトモ十四日後トシ
タル所以ナリ

第六百七十七條 前條ノ規定ニ從ヒテ新競賣期日ヲ定ムル場合ノ外
競落ヲ許シ又ハ許ササル決定ノ言渡ヲ爲ス可シ
競落期日ノ調書ニ付テハ第二百二十九條乃至第三百三十二條及ヒ第百
三十四條ノ規定ヲ準用ス

(解) 本條ハ競落決定ノ言渡ニ關スル規定ナリ即チ前條ノ規定ニ從ヒ新競賣期日ヲ定ムルカ故ニ競賣ノ許否ヲ

決定スヘキモノニ非ラサル其外ノ場合ニハ競落ヲ許ストカ又ハ許サ、ルトカ決定ヲ與フヘキモノトス而シテ是
レカ期日ノ調書ニ付テハ第二百二十九條第三百三十二條及ヒ第三百三十四條ノ規定ヲ準用スヘキモノトス

第六百七十八條 競賣期日ト競落期日トノ間ニ天災其他ノ事變ニ因
リ不動産カ著シク毀損シタルトキハ最高價競買人タル呼上ヲ受ケ
タル者ハ其競買ヲ取消ス權利アリ其毀損ノ著シキヤ否ヤハ裁判所
事情ヲ斟酌シテ之ヲ定ム

(解) 競落期日ト競落期日トノ間ニ天災其他ノ事變ノ爲メ其買受ケタル不動産カ著シク毀損シ買受人ノ目的ト
齟齬スル場合ニ最高價競買人タル呼上ケテ受ケタルモノハ其競買ヲ取消ス權利アリ即チ此場合ニハ自己ノ目的
ヲ達スル一ヲ得サルヲ以テ買受人ヲシテ此取消權ヲ行使セシムルハ至當ノ規定タリ然レトモ其毀損ノ著シキカ
否ヤハ事實ノ問題ニ屬スルカ故裁判所ヲシテ取消ヲ爲サシムルハ公平ヲ期スル爲メニ外ナラサルナリ

第六百七十九條 競落ヲ許ス決定ニハ競賣ヲ爲シタル不動産競落人
及ヒ競落ヲ許シタル競買價額ヲ掲ケ又特別ノ賣却條件ヲ以テ競落
ヲ爲シタルトキハ其條件ヲモ掲クヘシ

右決定ハ之ヲ言渡ス外尙ホ裁判所ノ掲示板ニ揭示シテ公告ス可シ

(解) 本條ハ競落許可ノ決定ニ掲クヘキ事項ヲ定メタリ即チ競賣ヲ爲シタル不動産競落人競落價額其外特別ノ賣却條件アリタルトキハ其條件ヲ掲クヘキ者トシタルハ是レ競賣ニ關スル重要ノ事項ナルカ故テ掲ケテ競賣ヲ完了スヘキコトナセリ

又第二項ニ之ヲ言渡ス外尙ホ裁判所ノ掲示板ニ公告スヘシトシタルハ利害關係人ニ之ヲ知ラシメンカ爲メナリ

第六百八十條 利害關係人ハ競落ノ許否ニ付テノ決定ニ因リ損失ヲ

被ムル可キ場合ニ於テハ其決定ニ對シ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

競落ヲ許ス可キ理由ナキコト又ハ決定ニ掲ケタル以外ノ條件ヲ以

テ許ス可キコトヲ主張スル競落人又ハ競落ヲ求メ之ヲ許ス可コト

ヲ主張スル競買人モ亦即時抗告ヲ爲スコトヲ得

右抗告ハ執行停止ノ效力ヲ有ス

第二項ノ場合ニ於テ競落ヲ求メタル競買人ハ其申出テタル價格ニ

付キ拘束ヲ受クルモノトス

(解) 本條ノ許否ハ競買人ノ利害ニ關スルト少ナカラス即チ高價ノ競買申出アルニ拘ハラス其以下ノモノナシ

競買人ト定メタルカ如キ場合ニ利害關係ヲ有スルモノハ之ヲ理由トシテ抗告ヲ爲スヘキモノナリ然レモ競落ヲ許スヘキ理由ナキト又ハ競落決定ニ掲ケタル以外ノ事項ヲ以テ主張スル競落人ヲ求メ之ヲ許ス可キト主張スル競買人モ競落許否ノ決定當ヲ失ヒ其結果自己ノ利益ヲ害セラレタルトキニ於テハ其理由ヲ陳ヘテ抗告ヲ爲シタルトキハ元ヨリ許サヘルヲ得サルナリ

而シテ決定ニ對シテ抗告アリタルトキハ執行停止ノ效力ヲ有スヘキモノト定メタルハ一旦執行セハ回復スヘカヲサル損害アルヲ恐レタル爲 ナリ

又未項ハ前ニモ陳ヘタル如ク最高價ノ呼上クナキハ其者ハ競落人トナルカ故價格ニ付キ拘束セララル、モノトセリ

第六百八十一條 競落ヲ許ササル決定ニ對スル抗告ハ此法律ニ掲ク

ル總テノ不許ノ原因ナキコトヲ理由トスルトキニ限り之ヲ爲スコ

トヲ得

競落ヲ許シタル決定ニ對スル抗告ハ此法律ニ掲クル競落ノ許可ニ

對スル異議ノ原因ノ一ヲ理由トスルトキ又ハ競落期日ノ調書ノ旨

趣ニ牴觸シタルコトヲ理由トスルトキニ限り之ヲ爲スコトヲ得

取消ノ訴若クハ原狀回復ノ訴ノ要件ヲ理由トスル抗告ハ前二項ノ

規定ニ依リ妨ケラルルコト無シ

(解) 本條ハ競落ノ許否ヲ裁判所ニ於テ決定シタル旨波ニ對スル抗告ハ如何ナル場合ニ限ルカヲ定メ先ツ第一項ニ於テ競落ヲ許サ、ル決定ニ對スル抗告ハ此法律ニ掲ケル總テノ不許ノ原因ヲキテ理由トスルトキニ限リ之ヲ爲スコトヲ得トセリ即チ不許ノ原因ハ一個ニテモアレハ競落ヲ許サ、ルニ之カ原因アルニ拘ハラズ決定シタルカ故ニ之ニ對シテ抗告ヲ許スハ至當ナリ

又第二項ハ此法律ニ掲ケル競落ノ許可ニ對スル異議ノ原因ノ一ヲ理由トスルハ又ハ競落決定カ競落期日ノ開番ノ旨趣ニ抵触シタル一ヲ理由トシタルハ限リ抗告ヲ爲ス一ヲ得トシタルハ是等ノ決定中ノ一ニ觸ル、以上ハ明ニ裁判所カ不合法ノ決定ヲ爲シタル一明カナルヲ以テ此場合ニモ抗告ヲ許セリ

末項ニ取消ノ原狀回復ノ際ノ要件ヲ理由トスル抗告ハ前二項ノ規定ニヨリ妨ケラレサルハ右二項ニ對スル抗告ハ特別ノ基礎ヲ備フルカ故前二項ノ規定ニ拘ハラズ抗告スル一ヲ得ト爲シタルナリ

第六百八十二條 抗告裁判所ハ必要ナル場合ニ於テハ反對陳述ヲ爲

サシタル爲メ抗告人ノ相手方ヲ定ム可シ

一ノ決定ニ關スル數箇ノ抗告ハ互ニ之ヲ併合スヘシ

第六百七十三條及ヒ第六百七十四條ノ規定ハ抗告ニモ亦之ヲ準用

ス

(解) 凡ソ裁判ニハ當事者アルヲ常トス抗告ニ付テモ亦然リ然レモ競落決定ニ對スル抗告ハ或ハ競落ヲ許スヲ以テ不法トスルアリ或ハ許サ、ルヲ以テ不法トスルアリテ自然相手方ノ一定セザレバ多シ此場合ニ反對陳述ヲ爲サシタル爲メ相手方ヲ定ムルハ必要ナリ故ニ本條第一項ニ於テ抗告裁判所ハ必要ナル場合ニハ反對陳述ヲ爲サシタル爲メ抗告人ノ相手方ヲ定ムヘシト規定シタル所以ナリ

次ニ第二項ニ一ノ決定ニ關スル數箇ノ抗告ハ互ニ之ヲ併合スヘシトシタルハ其之ヲ主張スル基礎ヲ同フル故ニ之ヲ併合シテ審理スルノ便宜ナルニ因レリ又第三項ハ異議ノ訴ヲ爲スニ付キ法律上ノ制限ヲ定メタリ而シテ其制限ハ第六百七十三條第六百七十四條ヲ準用ストシタルニ過キス

第六百八十三條 執行裁判所ノ決定ヲ變更シ又ハ廢棄シタル抗告裁

判所ノ裁判ハ執行裁判所之ヲ裁判所ノ掲示板ニ揭示シテ公告ス可

シ

(解) 執行裁判所ノ決定ヲ變更シ又ハ廢棄シタル抗告裁判所ノ裁判ハ公告スヘキモノトシタルハ利害關係人ヲシテ如何ニ觀覽ヲ結了セシヤヲ周知セシメンカ爲メニ定メタルモノナリ

第六百八十四條 競落ヲ許ササル決定確定シタルトキハ競落人及ヒ

競落ヲ求メタル競買人ハ其競買ノ責務ヲ免カル

(解) 競買ニ付キ競買價格ヲ申立テタル各人ハ之ヲ申立ルト共ニ拘束ヲ受テ可キモノナル一ハ前二條ヘタリ然

ル競ニ落テ許サ、ル決定確定シタルトキハ競落人及ヒ競買人ハ其競買ニ付キテハ何等ノ關係ナキモノトナリタルヲ以テ其責任ナキハ云ハスシテ明カナリ

第六百八十五條 第六百八十八條ノ場合ニ於テ競買取消ノ爲メ競落ヲ許ササルトキハ第六百五十五條乃至第六百五十七條ノ規定ヲ準用ス

(解) 第六百七十八條ノ場合ニ於テ競買取消ノ爲メ競落ヲ許サ、ルハ其實純然タル競落ヲ許サ、ルトハ異ナレリ然リト雖モ其結果ハ同一ナルヲ以テ第六百五十五條乃至第六百五十七條ノ規定ヲ準用スルトトシタリ

第六百八十六條 競落人ハ競落ヲ許ス決定ニ因リテ不動産ノ所有權ヲ取得スルモノトス

(解) 本條ハ一見明了別ニ説明スルノ要ナキモ一言以テ之ヲ掩ヘハ競買ニ依リ所有權ヲ得ルハ競落ヲ許スノ決定ヲ與フルノ時ニシテ其レヨリ以前ニハ所有權ノ移轉ナシトノヲ明ニシ從テ競落ヲ許ス決前其物件ニ災其他ノ事變ニ依リ消滅シタルトキハ競買人ノ負擔タルヘシ

第六百八十七條 競落人ハ代金ノ全額ヲ支拂ヒタル後ニ非サレハ不動産ノ引渡ヲ求ムルコトヲ得ス

競落人若クハ債權者競落ヲ許ス決定アリタル後引渡アルマテ管理人ヲシテ不動産ヲ管理セシメンコトヲ申立テタルトキハ裁判所ハ之ヲ命ス可シ
債權者カ引渡ヲ拒ミタルトキハ競落人若クハ債權者ノ申立ニ因リ裁判所ハ執達吏ヲシテ債權者ノ占有ヲ解キ其不動産ヲ管理人ニ引渡サシム可シ

(解) 本條第一項ハ當然ノ規定ニシテ別ニ説明ヲ要セス又第二項モ明了ニシテ疑ナシヲ要スルニ管理人ヲシテ不動産ヲ管理セシムルハ關係人ノ利益ノ爲ニシテ若シ之ヲ管理人ニ於テ管理セシメサレハ損壞スルノ恐レアルニ因レリ第三項ニ於テ債權者カ引渡ヲ拒ミタルハ執達吏ヲシテ債權者ノ占有ヲ解キ管理人ニ不動産ヲ引渡サシムルハ債權者ニ任セ置クハ危険ニシテ執行ノ目的ヲ達スルニハ如此爲サ、レハ不可ナリ

第六百八十八條 競落人カ代金支拂期日ニ其義務ヲ完全ニ履行セサルトキハ裁判所ハ職權ヲ以テ不動産ノ再競賣ヲ命ス可シ
最初ノ競賣ノ爲ニ定メタル最低競賣價額其他賣却條件ハ再競賣ノ

手續ニモ亦之ヲ適用ス

再競賣期日ハ少ナクトモ十四日ノ後タル可シ

競落人カ再競賣期日ノ三日前マテニ買入代金及ヒ手續ノ費用ヲ支拂ヒタルトキハ再競賣手續ヲ取消ス可シ

再競賣ヲ爲ストキハ前ノ競落人ハ競買ニ加ハルコトヲ許サス且再度ノ競落代價カ最初ノ競落代價ヨリ低キトキハ不足ノ額及ヒ手續ノ費用ヲ負擔シ其高キトキハ剩餘ノ額ヲ請求スルコトヲ得ス

(解) 不動産ノ競賣ヲ爲スニハ其代金ヲ得ルニ在リ然ルニ競落人ヲシテ代金支拂期日ニ其義務ヲ完全ニ履行セサルトキハ競賣人ハ其目的ヲ達スルニ得サル故ニ此場合ニ於テ裁判所ハ職權ヲ以テ不動産ノ再競賣ヲ命スヘキモノトス然レトモ競落人カ再競賣期日ノ三日前ニ買入代金及ヒ其他手續ノ費用ヲ支拂ヒタルトキハ再競賣ヲ爲スノ必要ナキカ故之レカ取消ヲ爲サハカラス若シ競落人ニシテ代金其他ノ費用ヲ支拂ヒタルニ拘ハラズ

然レモ再競賣ヲ爲スノ必要アルトキハ最初ノ競賣ノタメニ定メタル最抵價格其他賣却條件期日等ハ手數ヲ省クノ便アリテ害ナクレハ之ヲ適用スヘキハ當然ナリ

第四項ニ付テハ第五百七十七條第三項ト同一ナルヲ以テ説明セス就テ見ルヘシ

第六百八十九條 共有物持分ノ強制競賣ニ付テハ債權者ノ債權ノ爲メ債務者ノ持分ニ付キ強制競賣ノ申立アリタルコトヲ登記簿ニ記入ス但他ノ共有者ニハ其強制競賣ノ申立ヲ通知ス可シ
最低競賣價額ハ共有物全部ノ評價額ニ基キ債務者ノ持分ニ付キ之ヲ定ム可シ

(解) 共有物ニ付テハ其共有物全体ニ付キ競賣スルニ得ス其債務者ノ持分ニ限り競賣スヘキモノニシテ若シ其持分以外ニ競賣ヲ爲スニ得ルトセハ他人ヲ害スルカ如キ不都合アリ故ニ共有物持分ノ競賣ハ其持分ニ限り債權者ノ債權ノ爲メ強制執行ヲ爲スヘク而シテ之ヲ爲スニ付テハ登記簿ニ記入シテ他ノ共有者ニ其旨ヲ通知スヘキモノトシタルハ他ノ共有者ハ其不動産ノ處分ニ付キ至大ノ關係アルヲ以テ豫メ之ヲ通知ヲ爲シ置クハ必要ナルヲ以テナリ

已ニ共有物ニ付キ持分外ニ競賣ヲ爲スニ得サル結果トシテ其持分ニ對スル價格ヲ知ルノ必要アリ第二項ハ之レカ規定ヲ爲シテ曰ハク最抵競賣價格ハ共有物全部ノ評價額ニ基キ債務者持分ニ付キ之ヲ定ムトセリ

第六百九十條 競賣申立カ競落ヲ許スコト無クシテ完結シタルトキハ裁判所ハ第六百五十一條ノ規定ニ從ヒテ爲シタル差押記入ノ抹消ヲ登記判事ニ囑託ス可シ

(解) 債権者カ競賣ノ申立ヲ爲シタル後債権者ニ於テ義務ノ履行ヲ爲スカ又ハ其他ノ理由ニ依リ競賣申立カ競落ヲ許ス一ナクシテ完結シタルトキハ裁判所ハ第六百五十一條ノ規定ニ從ヒテ登記簿ニ差押ノ記入ヲ爲シタルヲ取消サシムル等ノ一ヲ爲サハルヘカラス

第六百九十一條 競落ヲ許ス決定確定スルトキハ賣却代金カ配當ニ與カル各債権者ヲ満足セシムルニ足ラサル場合ニ於テハ民法、商法及ヒ特別法ニ從ヒテ之ヲ配當ス可シ

(解) 競落ヲ許ス決定ニシテ確定シタルトキハ賣却代金ノ配當ヲ爲スハ順序ナリ然ルニ其代金ニシテ各債権者ヲ満足セシムルハ可ナリ苟モ満足セシムル一ヲ得サルトキハ民法商法又ハ其他ノ特別法ニ依ルヘキモノトシタルハ要スルニ特種ノ關係ヨリ生スル債権ノ如キ權利ノ種類ニ因リ等差ヲ設ケアルカ故ニ各權利ノ輕重ニ依リ配當ヲ爲サシムルカタメナリ

第六百九十二條 各債権者ハ競落期日マテニ其債権ノ元金、利息費用其他附帶ノ債権ノ計算書ヲ差出ス可シ
前項ノ規定ニ從ハサル債権者ニ付テハ第六百二十八條第二項ノ規定ヲ準用ス

(解) 各債権者ニ其債権ニ對スル計算書ヲ差出サシムルハ此計算書ニ依リテ調査ヲ爲シ配當ヲ決定スヘキモノナレハ過クトモ競落期日マテニ差出サハルヘカラス若シ此期日マテニ差出サハルモノハ第六百二十八條第二項ニ於テ知り得タル部分ニ付キ配當ノ計算ヲ爲スヘキナリ若シ此計算書ニ對シ不服ナルモ補充ヲ申立ル一ヲ許サス是レ自己ノ過失ノ結果ニシテ他日其過失ヲ理トシテ不服ヲ申立ツル一ヲ許ストセハ法律ハ過失者ヲ保護スルノ結果ヲ來タシテ不都合ナクレハナリ

第六百九十三條 代金ノ支拂及ヒ配當ハ競落ヲ許ス決定ノ確定後ニ裁判所カ職權ヲ以テ定ムル期日ニ於テ之ヲ爲ス
此期日ニハ利害關係人、執行力アル正本ニ因ラスシテ配當ヲ要求スル債権者及ヒ競落人ヲ呼出ス可シ

(解) 本條ハ競落ヲ許スノ決定確定シタル後ノ處分方ヲ規定シタルモノナリ

第六百九十四條 期日ニ於テハ先ツ配當ス可キ不動産ノ賣却代金ノ幾許ナルヤヲ定ム可シ
左ノモノヲ賣却代金トス

第一 代金

第二 不動産カ果實其他金錢ニ見積ルコトヲ得ヘキ利益ヲ生ス

ル場合ニ於テハ競落決定言渡ヨリ代金支拂マテノ利息

代金支拂ハ裁判所ニ之ヲ爲ス可シ

最高競買價額ノ保證ノ爲メ預リタル金額ハ代金ニ之ヲ算入ス

(解)本條ハ不動産競却代金ノ配當方法ヲ規定シタルモノニシテ一見明了ナルヲ以テ其大要ヲ陳ヘン

本條第一項第二號ニ賣却代金ト云フハ奇怪ナルカ如キモ之ヲ合算シテ配當ノ基礎ヲ作ルモノナレハ之ヲ賣却代金ト見做シタルモノナリ

又第四項ハ手數ヲ省ク爲メ便宜上ヨリ斯クハ規定シタリ即チ保證金ヲ返付シテ更ニ代金ヲ受領スルモ亦之ヲ代金ノ内拂トスルモ競落人ニ對シ不都合ノ一ナキニ因レリ

第六百九十五條 裁判所ハ出頭シタル利害關係人及ヒ執行力アル正本ニ因ラスシテ配當ヲ要求スル債權者ヲ訊問シテ配當表ヲ確定ス可シ

(解)本條ハ配當表ヲ確定スヘキ手續ヲ定メタルモノナリ元來裁判所ニ於テ配當表ヲ作ルニ付キ利害關係人ヲ審訊スルハ其母ノ別了ナルヲ欲スルカ爲メナリ若シ夫レ債權者中不當ニ要求ヲ爲スカ如キモノアリテハ他ノ債權

者ヲ審スルト少ナカラサレハ此場合ニハ利害關係人及ヒ執行力アル正本ニ因ラスシテ配當ヲ要求スル債權者ヲ審訊スルハ當然ナリ

第六百九十六條 配當表ニハ賣却代金各債權者ノ債權ノ元金利息費

用及ヒ配當ノ順位並ニ配當ノ割合ヲ記載ス可シ

若シ出頭シタル總テノ利害關係人及ヒ執行力アル正本ニ因ラスシテ配當ヲ要求スル債權者一致シタルトキハ其一致ニ基キ配當表ヲ作ル可シ

(解)本條ハ配當表ヲ作ルニ付キ記載スヘキ事項及ヒ配當方法ヲ定メタリ

第六百九十七條 配當表ニ對スル異議ノ完結及ヒ配當表ノ實施ニ付テハ第六百三十條以下ノ規定ヲ準用ス但以下數條ニ於テ別段ノ規定ヲ設ケタルモノハ此限ニ在ラス

(解)本條ハ配當表ニ關スル異議ノ完結及ヒ配當實施ニ付テハ特別ノ規定ヲ除ク外動産ニ關スル強制執行ノ場合ニ於ケル第六百三十條以下ノ規定ヲ準用ストノ一ヲ定メタルモノナリ

第六百九十八條 期日ニ出頭シタル債務者ハ各債權者債權ニ對シ又ハ其債權ノ爲メ主張スル順位ニ對シ異議ヲ申立ツル權利アリ
出頭シタル各債權者ハ自己ノ利害ニ關シテハ他ノ債權者ニ對シ前項ト同一ノ權利アリ

執行スルヲ得ヘキ債權ニ對スル債權者ノ異議ハ第五百四十五條第五百四十七條及ヒ第五百四十八條ノ規定ニ從ヒテ之ヲ完結ス

(解) 本條第一項ハ債務者カ異議ノ申立ニ關スル規定ニシテ即チ配當期日ニ債務者ノ資産ヲ強制競賣ニ付シ債務者ニ辨濟ヲ爲スヘキモノナルヲ以テ期日ニ出頭シタル債務者ニ異議ノ權利ヲ行使セシムルハ至當ナリ又債務者モ利害ノ關係ヲ有スルカ故ニ其自己ノ利害ニ付キ異議ヲ申立ツルハ債務者ト同一ナレハ是又前項ノ規定ヲ適用スルコトセリ

未項ニ執行スルヲ得ヘキ債權ニ對スル異議トハ判決ニ依リテ確定シタル債務者ノ異議ヲ云フ是等ハ第五百四十五條以下ノ規定ニ從ヒ完結スヘキモノナリトノヲ決定メタルモノナリ

第六百九十九條 競落人ハ賣却條件ニ因リ不動産ノ負擔ヲ引受クル外配當表ノ實施ニ際シ買入代金ノ額ニ滿ツルヲ限トシ關係債權者

ノ承諾ヲ得テ買入代金ノ支拂ニ換ヘ債務ヲ引受クルコトヲ得若シ債權者競落人ナルトキハ其債權ノ配當額カ買入代金ノ額ニ滿ツル限リハ買入代金トシテ之ヲ計算スルニ因リテ消滅ス然レトモ引受ク可キ債務又ハ計算ス可キ競落人ノ債權ニ對シ適當ナル異議アルトキハ之ニ相當スル代金ヲ支拂ヒ又ハ保證ヲ立ツ可シ

(解) 競落人ハ關係債權者ノ承諾ヲ得テ代金ノ支拂ニ換ヘ債務ヲ引受クルコトヲ得ルハ各關係人ノ手數ヲ省ク便宜上ノ理由ヨリ出テ又債權者競落人ナルトキハ自己ノ負擔ハ自己ノ權利ト相殺セラレヘキモノトノ原則ニ依リタルハ是又當事者相互ノ便宜ヲ計リテ事ヲ落着セシムル主趣ニ出テタルナリ

第七百條 配當表ヲ實施シタル後裁判所ハ配當調書及ヒ競落決定ノ

正本ヲ登記判事ニ送付シテ左ノ諸件ヲ囑託ス可シ

- 第一 競落人ノ所有權ノ登記
- 第二 競落人ノ引受ケサル不動産上負擔記入ノ抹消
- 第三 第六百五十一條ノ規定ニ從ヒ爲シタル記入ノ抹消

右登記及ヒ抹消ニ關スル總テノ費用ハ競落人之ヲ負擔ス可シ

(解) 本條ハ配當實施後ノ關係ヲ定メタル者ニシテ即チ裁判所ハ配當調書及ヒ競落決定ノ正本ヲ登記判事ニ送付シテ第一號乃至第三號ノ事項ノ登記ヲ爲サシムヘキモノトス之レ競落ノ決定確定セハ從來不動産ニ負ヒタル債務ヲ免脱スルカ故之ヲ證明スヘキ記入ノ取消ヲナサシムルト同時ニ競落人ヲシテ所有者タルノ記入ヲナサシムヘキトシタルモノナリ

第七百一條 數多ノ差押債權者ノ爲メ同時ニ爲ス可キ不動産ノ競賣手續ニ付テハ前數條ノ規定ヲ準用ス

(解) 本條ハ明了説明スルノ要ナシ

第七百二條 裁判所ハ競賣期日ノ公告前利害關係人ノ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ競賣ニ換ヘテ入札拂ヲ命スルコトヲ得但入札拂ニ付テハ以下數條ニ於テ別段ノ規定ナキモノハ前數條ノ規定ヲ準用ス

(解) 本條ハ競賣ニ換ヘテ入札拂ニ附スルコトヲ得ル旨ヲ定メタルモノニシテ裁判所ハ競賣期日ノ公告前利害關係人ノ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ命スヘキモノナリ而シテ入札トハ買受人カ買受價格ヲ票記シ之ヲ提出シ其高價ノモノヲ撰ミ之ニ落札セシムルノ方法ナリ此方法ハ競賣ニ比シ簡便ナリト雖モ時ニ不公平ニ失スルアルカ故

ヤ多クハ行ハサルモ申立アリタルトキ之レチ行フハ差支ナシ

第七百三條 入札ハ入札期日ニ於テ執達吏ニ之ヲ差出ス可シ

入札ニハ左ノ諸件ヲ具備スルコトヲ要ス

第一 入札人ノ氏名及ヒ住所

第二 不動産ノ表示

第三 入札價額

(解) 入札ハ入札期日ニ執達吏ニ幾何ヲ以テ買受クト云フ價格ヲ記入シ其レチ封入シタル書面ヲ差出シテ之ヲ爲スヘキモノトス而シテ記載要件ハ一號乃至三號トセリ

第七百四條 執達吏ハ入札人ノ面前ニ於テ入札ヲ開封シ之ヲ朗讀ス可シ

二人以上同價額ノ入札アルトキハ執達吏ハ其者ヲシテ追加ノ入札ヲ爲サシメ最高價入札人ヲ定ム

一定ノ金額ヲ以テ入札價額ヲ表セスシテ他ノ入札價額ニ對スル比

例ヲ以テ價額ヲ表シタル入札ハ之ヲ許サス

(解) 執達吏ハ入札ヲ封スルニハ入札人ノ面前ニ於テ開讀スルハ入札ノ正確ヲ保タンカ爲メナリ而シテ二人以上同價ノモノアリタルトキハ其者ヲシテ執達吏ハ更ニ入札ヲ爲サシメ最高價入札人ヲ定ムルハ關係人ノ利益ヲ計ルト共ニ落札者ヲ明カナラシメンカ爲メナリ

又二項ハ自ラ價格ヲ定メスシテ他ノ決定シタル價格ニ依リ定マルトキハ爭論トナルカ故ニ如此入札ヲ許サス

第七百五條 最高價入札人タル呼上ヲ受ケタル者第六百六十四條ノ

規定ニ從ヒ保證ヲ立ツ可キ求ヲ受ケルモ之ヲ立テサルトキハ其次位ノ入札人ヲ以テ最高價入札人ト定ム但此場合ニ於テハ最初呼上ヲ受ケタル者ハ其入札價額ト次位ノ入札價額トノ差金ヲ負擔スル義務アリ

(解) 本條ハ入札人カ保證ヲ立ツヘキ求ニ應セサルトキノ關係ヲ定メタルモノナリ即チ最高價ノ呼上ヲ受ケタル者ハ落札人タリ此落札人ニシテ保證ヲ立ツヘキ求ヲ受ケ之ニ應セサルトキハ其次位ノモノヲ以テ落札ノ人トスヘキハ至當ニシテ然ラサレハ徒ニ手數ヲ費スノミナラス其間ニ價額ノ變動等アリテ不都合少ナカラサレハナリ然レト次位ノ落札人ハ最初呼上ヲ受ケタル入札價格ノ差ヲ引受クヘキモノナリ

第三款 強制管理

第七百六條 強制管理ニ付テハ第六百四十二條第六百四十三條第六百四十四條第一項第三項及ヒ第六百五十一條乃至第六百五十四條ノ規定ヲ準用ス
不動産カ債權者ノ債權ニ付キ不動産上ノ義務ヲ負フタル場合ニ於テハ第六百四十三條第一號第二號ニ依リ提出ス可キ證書ハ不動産ノ債權者カ占有スルコトヲ説明スル證書ヲ以テ足ル

(解) 強制管理ト強制競賣トハ其性質異ナルモ同シク強制執行ノ方法タルニ於テハ二者同一タリ故ニ強制管理ニ關スル規定ニシテ強制競賣ノ規定ニ抵觸セサル限りハ之ヲ適用スルハ單口立法ノ宜シキヲ得タルモノト云フヘシ本條ハ茲ニ強制管理ニ強制競賣ニ關スル規定ヲ準用スルコトヲ定メタリ

第二項ハ強制管理ニ特別ノ規定タリ是レ強制管理ハ強制競賣ト異ナリテ不動産ヲ處分スルニアラスシテ不動産管理權ヲ強制シテ其管理ニ依リ得ル處ノ收益ヲ以テ債務ヲ辯濟セシムルニアルカ故ニ債務者ノ所有ニアラサルモノヲ管理スルモ弊害ナキ故不動産ヲ債權者カ占有スルコトヲ説明スル證書ヲ以テ足レルコトナセリ

第七百七條 裁判所ハ強制管理開始ノ決定ニ於テ債務者カ管理人ノ事務ニ干渉スルコト及ヒ不動産ノ收益ニ付キ處分スルコトヲ禁シ

又不動産ノ收益ノ給付ヲ爲ス可キ第三者アルトキハ其第三者ニ其後ノ給付ヲ管理人ニ爲ス可キコトヲ命ス可シ
既ニ收穫シ若クハ收穫ス可ク又ハ期限ノ到來シ若クハ到來ス可キ果實ハ收益ニ屬ス

開始決定ハ第三者ニ對シテハ之ヲ送達スルニ因リ其效力ヲ生ス此送達ハ職權ヲ以テ之ヲ爲ス

(解) 本條ハ強制管理開始ノ決定ニ掲クヘキ事項及ヒ權限ヲ定メタルモノナリ之レ強制管理ナルモノハ本條ニ定メタル事項ヲ強制シテ自由ナラシメサルノ意ニシテ之ニ因リテ債務者ハ其不動産ノ管理權ヲ奪ハレ債權者ハ之レカ爲メ權利ヲ充タスノ方法ナリ
第二項ハ收益ノ何物タルノ及時期ヲ定メテ此收益ハ管理人ニ歸スヘキヲ明ニセリ
又第三項ハ強制管理ノ開始決定ノ效力發生期ヲ定メテ之ヲ送達シタルトキトシ從テ此送達ヨリ不動産ハ何人ニ對シテモ拘束サルヘキモノナリ

第七百八條 裁判所ハ強制管理開始ノ決定ヲ爲シタル不動産ニ付キ強制管理ノ申立アルモ更ニ開始決定ヲ爲スコトヲ得ス

右申立ハ執行記録ニ添附スルニ依リ配當要求ノ效力ヲ生シ又既ニ開始シタル強制管理ノ取消ト爲リタルトキハ開始決定ヲ受ケタル效力ヲ生ス

假差押ノ命令アリタル不動産ニ付テハ本條ノ規定ヲ適用セス

(解) 本條ハ動産ニ關スル強制執行ノ第五百八十六條第六百四十五條ト同一ノ旨趣ニ出テ已ニ前ニ説明シタルヲ以テ説明セス

第七百九條 配當要求ハ執行力アル正本ニ因リ且裁判所ノ所在地ニ住居ヲモ事務所ヲモ有セサル者ハ假住所ヲ選定シテ執行裁判所ニ之ヲ爲ス可シ

(解) 本條ハ強制管理開始後ニ配當要求ヲ爲サントスル債權者アル場合ニ本條ノ規定ニ基キ之ヲ請求ヲ爲サルルヘカラストノ一ヲ規定シ即チ執行力アル正本ヲ以テ爲スヘキモノトセリ後段ハ前ニ屢々説明シタル如ク書類ノ送達等ノ不便ヲ感シテ其レヲ避ケンカ爲メニ設ケタリ

第七百十條 執行裁判所ハ前二條ノ申立及ヒ要求アリタルコトヲ債權者債務者及ヒ管理人ニ通知ス可シ

(解) 債権者債務者及ヒ管理人ニ通知スルハ是等ノモノハ利害ノ關係ヲ有スルヲ以テ裁判所ハ前二條ノ申立及ヒ要求アリタルヲ通知シ以テ利害關係人ニシテ遺囑ナカラシメンヲ欲シタルニ外ナラス

第七百一十一條 管理人ハ裁判所之ヲ任命ス但債権者ハ適當ノ人ヲ推薦スルコトヲ得

管理人ハ管理及ヒ收益ノ爲メ自ラ不動産ヲ占有スル權ヲ有ス此場合ニ於テ抵抗ヲ受クルトキハ執達吏ヲ立會ハシムルコトヲ得

管理人ノ任命ハ債務者ニ代リ第三者ノ給付ス可キ收益ヲ取立ツル權ヲ授與スルモノトス

(解) 管理人カ不動産ノ管理ヲ爲スニハ公平ナラサルヘカラス故ニ之カ任命ハ裁判所之ヲ爲スチ本則トス然レモ債権者ノ適當ト認ムルモノヲシテ推薦セシムルモ不可ナカルヘシ

次ニ第二項第三項ハ管理ヲ爲スニ必要事項タリ元來管理人ナルモノハ債務者ノ不動産ニ對シ強制以テ管理等ヲ行ヒタル結果トシテ其ノ收益ヲ以テ債務ヲ辯濟セシムル重任アルカ故此等ノ權限ヲ管理人ニ與ヘサレハ管理ノ目的ヲ達スルヲ得サルヘキニ至ルヲ以テ充分管理ニ必要ナル權限ハ與ヘサルヘカラサルナリ

第七百十二條 裁判所ハ債権者及ヒ債務者ヲ審訊シタル後又適當トスル場合ニハ鑑定人ヲ立會ハシメタル上管理人ニ管理ニ關シ必要

ナル指揮ヲ爲シ又管理人ニ與フ可キ報酬ヲ定メ且管理人ノ業務施行ヲ監督ス可シ

裁判所ハ管理人ニ保證ヲ立テシメ又ハ二拾圓以下ノ過料ヲ言渡シ又ハ其職ヲ免スルコトヲ得

(解) 本條ハ管理人ノ監督方法ヲ定メタルモノナリ抑モ如此規定ヲ設ケタルハ即チ債権者債務者ノ爲メ適當ニ其任務ヲ盡サシムルノ必要ヨリ起レリ而シテ管理人ハ他人ノ爲メニ管理ヲ爲スモノナレハ之レニ對シテ報酬ヲ與ヘサルヘカラサルハ勿論タリ

第七百十三條 第三者不動産ニ付キ強制管理ヲ許スコトヲ妨クル權利ヲ主張スルトキハ第五百四十九條ノ規定ヲ準用ス

(解) 強制管理ヲ妨クヘキ第三者ノ主張スル權利トハ強制管理ヲ命セラルヘキ目的物ニ付キ第三者カ所有權ヲ主張シテ管理ヲ妨クル場合ヲ云フ此場合ニハ第五百四十九條ノ規定ヲ準用スヘキモノトセリ而シテ第五百四十九條ハ已ニ説明シタルハ就テ見ルヘシ

第七百十四條 管理人ハ直チニ不動産ニ付キ得タル收益ヨリ其不動産ノ負擔ニ係ル租稅其他ノ公課ヲ控除シタル後別段ノ手續ヲ要セ

スシテ管理ノ費用ヲ辨濟シ其殘額ノ配當ニ付キ債權者間ニ協議調
ハサルトキハ其旨ヲ裁判所ニ届出スヘシ

前項ノ届出アリタルトキハ裁判所ハ第六百九十一條第六百九十六
條乃至第六百九十八條ノ規定ヲ準用シテ配當表ヲ作り其配當表ニ
基キ管理人ヲシテ債權者ニ支拂ヲ爲サシム可シ

(解) 本條ハ管理人ニ於テ不動産ヲ管理シ其管理ノ結果得タル收益ノ處分ヲ定メタルモノニシテ右ハ強制執行
ノ處ニ於テ説明シタルト同一理由ナルヲ以テ説明セス

第七百十五條 管理人ハ毎年及ヒ其業務施行ノ終了後各債權者債務
者及ヒ裁判所ニ計算書ヲ差出ス可シ
各債權者及ヒ債務者ハ計算書ノ送達アリタルヨリ七日ノ期間内ニ
執行裁判所ニ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得
右期間内ニ異議ノ申立ナキトキハ計算ニ付キ全ク異議ナク且管理
人ノ卸任ヲ承諾シタルモノト看做ス

異議ノ申立アルトキハ裁判所ハ管理人ヲ審訊シタル後之ヲ裁判ス
可シ若シ異議ノ申立ナク又ハ申立テタル異議ヲ完結シタルトキハ
裁判所ハ管理人ヲシテ卸任セシムヘシ

(解) 本條ニ管理人ヲシテ計算書ヲ差出サシムト規定シタルハ利害ノ關係ヲ有スル債權者債務者ニシテ管理人
ノ差出セル計算書ヲ不公平ト爲ストキハ異議ヲ主張セシメンカ爲ニシテ若シ其計算書ニ付キ異議ヲ申立ツル
アレハ七日ノ期間内ニ爲サシムルコト、セリ然レトモ右期間ヲ徒過シタルトキハ全ク異議ナキモノトシテ計算
ハ確定スルト同時ニ管理人ノ行爲ヲ正當ト見做スヘキナリ
又異議ノ申立アリタルキハ其中立ヲ調査シテ當否ヲ鑑査シ判決ヲ與ヘ若シ異議ノ申立ナク又ハ申立タル異議ハ
完結シタルトキハ裁判所ハ管理人ヲシテ其任務ヲ卸サシヘキナリ

第七百十六條 強制管理ノ取消ハ裁判所ノ決定ヲ以テ之ヲ爲ス
此取消ハ各債權者不動産ノ收益ヲ以テ辨濟ヲ受ケタルトキハ職權
ヲ以テ之ヲ爲ス
若シ管理續行ノ爲メ特別ノ費用ヲ要スルトキ債權者カ必要ナル金
額ヲ豫納セサルニ於テハ裁判所ハ強制管理ノ取消ヲ命スルコトヲ

得

裁判所ハ右ノ取消ヲ決定スル際登記判事ト強制管理ニ關スル記入ノ抹消ヲ囑託ス可シ

(解) 本條ハ強制管理取消ニ關スル規定タリ而シテ此取消ハ決定ヲ以テ爲スヘキモノナリ抑強制管理人ハ不動産ノ収益ヲ以テ債權者カ辯済ヲ受クルニアルカ故ニ已ニ辯済ヲ受ケタルトキハ申立ナクモ當然職權ヲ以テ取消スヘキハ理ノ見易キ處ナリ

又第三項ノ取消ハ管理續行ノ費用ヲ豫納セサル結果ヨリ起リタルモノニシテ此場合ニハ權利ノ拋棄ト見ルモ差支ナキカ故ニ取消ス可トセリ
然レモ右何レノ取消シタルチ間ハ登記判事ニ強制管理記入ノ抹消ヲ囑託スヘキ者ナリ

第三節 船舶ニ對スル強制執行

第七百十七條 商船其他ノ海船ニ對スル強制執行ハ不動産ノ強制競賣ニ關スル規定ニ從ヒテ之ヲ爲ス但事物ノ性質ニ因リテ差異ノ顯ハルルトキ又ハ以下數條ニ於テ別段ノ規定ヲ設ケタルトキハ此限ニ在ラス

端舟其他榜櫂ノミヲ以テ運轉シ又ハ主トシテ榜櫂ヲ以テ運轉スル舟ニハ本節ノ規定ヲ適用セス

(解) 本條ハ商船其他ノ海船ニ對スル強制執行ハ不動産ノ強制競賣ニ關スル規定ヲ準用スヘキヲ規定シ然レモ其事物ノ性質ニ依リ適用スヘカラサルトキハ特ニ規定ヲ設ケテ處分ストノコトヲ明ニシタリ唯是レカ例外トナルハ端船其他榜櫂ヲ以テ運轉スルモノハ本節ヲ適用セサルトセリ

第七百十八條 船舶ノ強制競賣ニ付テハ船舶カ差押ノ當時碇泊スル港ノ區裁判所ヲ以テ管轄執行裁判所トス

(解) 船舶ハ不動産ノ如ク一定不動ノモノニアラスシテ常ニ運轉スヘキ性質ノモノナレハ從テ管轄ニ付テモ不動産ト同一ナル能ハサルハ自然ノ勢ナリ故ニ本條ヲ以テ其管轄ヲ明ニシタルナリ

第七百十九條 船舶ハ執行手續中差押ノ港ニ之ヲ碇泊セシム可シ然レトモ商業上利益ノ爲メ適當トスル場 於テハ裁判所ハ總テノ利害關係人ノ申立ニ因リ航行ヲ許スコトヲ得

(解) 差押ハ債權者ヲシテ其物ノ運轉スルヲ許サス之レ一般ノ原則ニシテ船舶ヲ差押ヘタルトキモ然ラサルヘカラス故ニ執行中差押ノ港ニ碇泊セシムル所以ナリ然レモ船舶ハ商業上ノ必要ヨリ裁判所ハ利害關係人ノ申立

第七百二十條 強制競賣ニ付テノ申立ニハ左ノ證書ヲ添附ス可シ

第一 債務者カ所有者ナル場合ニ於テハ其所有者トシテ船舶ヲ占有スルコト又船長ナル場合ニ於テハ船長トシテ船舶ヲ指揮スルコトヲ疎明スルニ足ル可キ證書

第二 船舶カ船舶登記簿ニ登記アル場合ニ於テハ其船舶ニ關スル有效ナル各登記事項ヲ包含シタル登記簿ノ抄本

債權者ハ公簿ヲ主管スル官廳カ速隔ノ地ニ在ルトキハ第二號ノ抄本ノ求アラシムコトヲ執行裁判所ニ申立ツルコトヲ得

(解) 本條ハ債權者ニ於テ船舶ヲ競賣ニ付セシメテ請求スル場合ニ添付スル書類ヲ掲ケタリ

第七百二十一條 裁判所ハ債權者ノ申立ニ因リ船舶ノ監守及ヒ保存ノ爲メ必要ナル處分ヲ爲サシム可シ

此處分ヲ爲シタルトキハ開始決定ノ送達前ト雖モ差押ノ效力ヲ生ス

若シ此處分ヲ續行スル爲メ債權者カ必要ナル金額ヲ豫納セザルトキハ裁判所ハ之ヲ取消スコトヲ得

(解) 船舶ハ他ノ動産ト動産ト其性質ヲ異ニスルカ故ニ之レカ差押方法ニ付テモ特別ノ規定ヲ要ス則本條ハ是レカ規定ヲナシテ第一項ニ於テ必要ナル處分ヲ爲サシムルハ回復スヘカラサル損害ヲ避クル爲メ豫防シタルモノナリ

第二項ハ船舶差押ハ迅速ヲ要スルカ故ニ開始決定ノ送達前ト雖モ差押ノ效力ヲ生スヘキモノトセリ又第三項ハ金額ヲ債權者カ豫納セザルトキハ取消スヘキモノトシタルハ自ラ利益ヲ求メントスル者ニ於テ方法ヲ盡スヘキニ之ヲ盡サハルハ債權ノ放擲ト同一ナレハ是ニ向テ法律ハ保護スヘキモノニアラサルナリ

第七百二十二條 船長ニ對シ爲シタル判決ニ基キ船舶債權者ノ爲船舶ノ差押ヲ爲ストキハ其差押ハ所有者ニ對シテモ效力アリ此場合ニ於テハ所有者モ亦利害關係人トス

差押後所有者若クハ船長ノ變更アルモ手續ノ續行ヲ妨ケス

差押後新ニ船長ト爲リタル者ハ之ヲ利害關係人トス此場合ニ於テハ前船長ハ其關係人タル責務ヲ免カル

(解) 船長ニ對シテ船舶ノ差押ヲ爲シタルトキハ其効力ハ船舶所有者ニ對シテモ有効ナルハ船舶ヲ支配スル者ハ船長及ヒ船舶所有者ナルカ故船舶ニ關スル債權ニ付テハ債權者ニ於テ二者其一ヲ擬シテ爲ス便宜上ヨリ出テタルナリ從テ此結果トシテ差押後所有者若クハ船長ニ變更アルモ手續ノ續行ヲ妨ケサルナリ且差押後船長ニ變更アリタルトキ後ノ船長ハ前ノ船長ニ代リテ其義務ヲ負フヘキ者ナリト雖モ然レモ是ヲ以テ利害ノ關係ヲ斷ツヘキニアラサル故ニ此場合ニハ前船長ヲシテ利害關係人トシテ取扱フヘキモノトシタリ

第七百二十三條 船舶力差押ノ當時其裁判所管轄内ニ存セサルコトノ顯ハルルトキハ其手續ヲ取消ス可シ

(解) 船舶ハ航行ヲ爲スヘキ性質ノモノナレハ一定ノ場所ヲ以テ管轄ヲ定ムルヲ得ス故ニ現在地ヲ以テ管轄トシタリ然ルニ其管轄タル現在地ヲ去リタルトキハ其地ノ裁判所ハ管轄權ナシ本條ハ其關係ヲ定メテ差押ヲ取消スヘキト定メタリ

第七百二十四條 競賣期日ノ公告ニハ第六百五十八條第一號ニ掲ケタル旨趣ニ換ヘテ船舶ノ表示及ヒ其碇泊ノ場所ヲ掲ク可シ

(解) 本條ハ船舶ヲ競賣ニ附セントセル場合ニ競賣期日ノ公告ハ第六百五十八條ヲ適用スヘキトセリ然レモ

第六百五十八條ハ不動産ノ競賣期日ノ公告ナレハ同條第一號ノ不動産ヲ船舶ノ表示及ヒ其碇泊ノ場所ト改メ可キト爲シ他ハ同一理由ナレハ説明セス

第七百二十五條 定繫港ノ區裁判所管轄外ニ於テ差押ヲ爲シタルトキハ執行裁判所ハ競賣期日ノ公告ヲ定繫港ノ區裁判所ニ送付シ其裁判所ノ掲示板ニ揭示ス可キコトヲ囑託ス可シ

(解) 本條ハ船舶ノ競賣期日ノ公告ヲ定繫港外ノ區裁判所ニ於テ爲ス時ノ規定ニシテ競賣期日ノ公告ヲ定繫港ノ區裁判所ニ送付シ云々アルハ定繫港ノ區裁判所ハ本來ノ管轄權アルカ故ニ從テ其競賣ニ付キ説明アルカ爲メニ規定シタルモノナリ

第七百二十六條 船舶ノ股分ニ對スル強制執行ハ第六百二十五條ノ規定ニ從ヒテ之ヲ爲ス其執行ニ付テハ定繫港ノ區裁判所之ヲ管轄ス

(解) 船舶ノ股分トハ數人ノ所有ニ屬スル船舶ニシテ各人所有スル割合ヲ云フ而シテ此場合ニハ不動産ノ共有物ヲ競賣スルト同一ニシテ右ニ付テハ前ニ説明シタルヲ以テ略ス

第七百二十七條 債權者ハ差押命令ノ申請ニ債務者カ般船舶ノ股分ニ

差押後新ニ船長ト爲リタル者ハ之ヲ利害關係人トス此場合ニ於テハ前船長ハ其關係人タル責務ヲ免カル

(解) 船長ニ對シテ船舶ノ差押ヲ爲シタルトキハ其効力ハ船舶所有者ニ對シテモ有効ナルハ船舶ヲ支配スル者ハ船長及ヒ船舶所有者ナルカ故船舶ニ關スル債權ニ付テハ債權者ニ於テ二者其一ヲ撰ンテ爲ス便宜上ヨリ出テタルナリ從テ此結果トシテ差押後所有者若クハ船長ニ變更アルモ手續ノ續行ヲ妨ケサルナリ且差押後船長ニ變更アリタルトキ後ノ船長ハ前ノ船長ニ代リテ其義務ヲ負フヘキ者ナリト雖モ然レモ是ヲ以テ利害ノ關係ナ斷ツヘキニアラサル故ニ此場合ニハ前船長ナシテ利害關係人トシテ取扱フヘキモノトシタリ

第七百二十三條 船舶力差押ノ當時其裁判所管轄内ニ存セサルコトノ顯ハルルトキハ其手續ヲ取消ス可シ

(解) 船舶ハ航行ヲ爲スヘキ性質ノモノナレハ一定ノ場所ヲ以テ管轄ヲ定ムルヲ得ス故ニ現在地ヲ以テ管轄トシタリ然ルニ其管轄タル現在地ヲ去リタルトキハ其地ノ裁判所ハ管轄權ナシ本條ハ其關係ヲ定メテ差押ヲ取消スヘキト定メタリ

第七百二十四條 遊賣期日ノ公告ニハ第六百五十八條第一號ニ掲ケタル旨趣ニ換ヘテ船舶ノ表示及ヒ其碇泊ノ場所ヲ掲ク可シ

(解) 本條ハ船舶ヲ遊賣ニ附セントセル場合ニ遊賣期日ノ公告ハ第六百五十八條ヲ適用スヘキトセリ然レモ

第六百五十八條ハ不動産ノ遊賣期日ノ公告ナレハ同條第一號ノ不動産ヲ船舶ノ表示及ヒ其碇泊ノ場所ト改ム可キト爲シ他ハ同一理由ナレハ説明セス

第七百二十五條 定繫港ノ區裁判所管轄外ニ於テ差押ヲ爲シタルトキハ執行裁判所ハ競賣期日ノ公告ヲ定繫港ノ區裁判所ニ送付シ其裁判所ノ掲示板ニ揭示ス可キコトヲ囑託ス可シ

(解) 本條ハ船舶ノ競賣期日ノ公告ヲ定繫港外ノ區裁判所ニ於テ爲ス時ノ規定ニシテ遊賣期日ノ公告ヲ定繫港ノ區裁判所ニ送付シ云々アルハ定繫港ノ區裁判所ハ本來ノ管轄權アルカ故ニ從テ其遊賣ニ付キ説明アルカ爲メニ規定シタルモノナリ

第七百二十六條 船舶ノ股分ニ對スル強制執行ハ第六百二十五條ノ規定ニ從ヒテ之ヲ爲ス其執行ニ付テハ定繫港ノ區裁判所之ヲ管轄ス

(解) 船舶ノ股分トハ數人ノ所有ニ屬スル船舶ニシテ各人所有スル割合ヲ云フ而シテ此場合ニハ不動産ノ共有物ヲ競賣スルト同一ニシテ右ニ付テハ前ニ説明シタルナリ以テ略ス

第七百二十七條 債權者ハ差押命令ノ申請ニ債務者カ般船舶ノ股分ニ

付キ所有權ヲ有スルコトヲ證ス可キ船舶登記簿ノ抄本又ハ信用ス可キ證明書ヲ添付ス可シ

差押命令ハ責務者ノ外船舶管理人ニモ之ヲ送達ス可シ

差押ハ此命令ヲ船舶管理人ニ送達スルニ因リ債務者ニ送達スルト同一ノ效力ヲ生ス

(解) 本條ハ債權者カ船舶ノ股分ニ付キ差押ヲ求ムル手續及ヒ効力ヲ定メタリ即チ債權者ハ債務者カ船舶ノ股分權ヲ有スルヲ證明セサレハ基礎タル權利ノ正確ナルヲ知ルヲ得サルニ依ルカ故ニ此場合ニ於テ證明スヘキトナシタリ

而シテ差押命令ヲ債權者及ヒ管理人ニ送達セシムルハ主トシテ船舶ニ付キ利害ノ關係ヲ有スルカ故ナリ且又代理人ニ送達シタル命令ハ債權者ニ送達シタルト同一ノ効力ヲ有スレハ便宜上規定シタルナリ

第七百二十八條 船舶股分ノ競賣代金ノ配當ニ付テハ第六百二十六條以下ノ規定ヲ準用ス

(解) 本條ハ船舶ノ代金配當ハ第六百二十六條以下ノ動産ノ規定ニ準用ストノヲ明ニシタルモノナリ

第七百二十九條 外國ノ船舶ヲ差押ヘタルトキ又ハ登記簿ニ登記セ

サル船舶ヲ差押ヘタルトキハ登記簿ニ記入ス可キ手續ニ關スル規定ヲ適用セス

第三章 金錢支拂ヲ目的トセサル債權ニ付テ強制執行

第七百三十條 債務者カ特定ノ動産又ハ代替物ノ一定ノ數量ヲ引渡

ス可キトキハ執達吏ハ之ヲ債務者ヨリ取上ケテ債務者ニ引渡ス可シ

(解) 債權者カ特定ノ動産假ハ米百俵ト云フカ如キ又ハ一定ノ數量ヲ引渡スヘキ義務ヲ負ヒルトキニ於テ義務ノ履行ヲ爲サ、ルルハ執達吏ハ確定判決ノ効力ニ依リ之ヲ債務者ヨリ取上ケテ債務者ニ引渡スヲ以テ執行ノ結了トナルナリ之レ動産ノ如ク競賣手續ヲ爲スヲ要セサルハ一ハ金錢ヲ目的トスルト一ハ特定物タルトニ依ル自

然ノ區別ナリ

第七百三十一條 債務者カ不動産又ハ人ノ住居スル船舶ヲ引渡シ又ハ明渡ス可キトキハ執達吏ハ債務者ノ占有ヲ解キ債權者ニ其占有ヲ得セシム可シ

此強制執行ハ債權者又ハ其代理人カ受取ノ爲メ出頭シタルトキニ

限リ之ヲ爲スコトヲ得

強制執行ノ目的物ニ非サル動産ハ執達吏之ヲ取除キテ債務者ニ引渡ス可シ若シ債務者不在ナルトキハ其代理人又ハ債務者成長シタル家族若クハ雇人ニ之ヲ引渡ス可シ

債務者及ヒ前項ニ掲ケタル者不在ナルトキハ執達吏ハ右ノ動産ヲ債務者ノ費用ニテ保管ニ付ス可シ

債務者カ其動産ノ受取ヲ怠ルトキハ執達吏ハ執行裁判所ノ許否ヲ得テ差押物ノ競賣ニ關スル規定ニ從ヒテ之ヲ賣却シ其費用ヲ控除シタル後其代金ヲ供託ス可シ

(解) 債務者ニシテ不動産スハ人ノ住居セル船舶ニ付キ引渡又ハ引渡ノ義務ヲ負スルニ拘ハラズ然然債權者ノ求ニ應セサル時ハ債權者ハ執達吏ニ依頼シテ債權者ノ占有ヲ解キ債權者ニ引渡サシムルヘキモノナリ而シテ第二項ハ明丁ナルヲ以テ説明ヲ省ク
又末項ハ最後ノ處分ヲ規定シタリ即チ物ヲ保管スルニハ多少ノ費用ヲ要スル者ナルカ故限ナク之ヲ保管セシムルハ當事者ノ損害ナレハ之ヲ賣却シテ其代金ヲ供託セシムヘキモノトシタルハ適當ノ規定ナリ

第七百三十二條 引渡ス可キ物カ第三者ノ手中ニ存スルトキハ債務者ノ引渡ノ請求ハ申立ニ因リ金錢債權ノ差押ニ關スル規定ニ從ヒテ之ヲ債權者ニ轉付ス可シ

(解) 本條ハ債權者ノ請求スル物ハ第三者ノ占有ニ係ル場合ヲ定メテ金錢債權ノ差押ニ關スル規定ニ從ヒ債權者ニ轉付スヘキトセリ而シテ金錢債權ノ轉付ニ付テハ前ニ説明シタルヲ以テ説明セス

第七百三十三條 民法第四百十四條第二項及ヒ第三項ノ場合ニ於テハ第一審ノ受訴裁判所ハ申立ニ因リ民法ノ規定ニ從ヒテ決定ヲ爲ス(明治三十一年法律第十一號ヲ以テ本條中改正)

債權者ハ同時ニ其行爲ヲ爲スニ因リ生ス可キ費用ヲ豫メ債務者ニ支拂ヲ爲サシムル決定ノ宣言アランコトヲ申立ツルコトヲ得但其行爲ヲ爲スニ因リ此ヨリ多額ノ費用ヲ生スルトキ後日其請求ヲ爲ス權利ヲ妨ケス

(解) 本條ハ債務者カ爲スコトヲ得サル行爲ヲ爲シタルトキハ債權者ハ債務者ノ費用ヲ

以テ或ル處分ヲ爲スノ方法ヲ定メタリ而シテ第三者ニ爲サシメ得ヘキモノナレハ第一審裁判所ハ申立ニ因リ民法ノ規定ニ從ヒ決定スヘキトセリ第二項ニ明ナルヲ以テ説明セス

第七百三十四條

債務ノ性質カ強制履行ヲ許ス場合ニ於テ第一審ノ受訴裁判所ハ申立ニ因リ決定ヲ以テ相當ノ期間ヲ定メ債務者カ其期間内ニ履行ヲ爲サ、ルトキハ其遅延ノ期間ニ應シ一定ノ賠償ヲ爲スヘキコト又ハ直チニ損害ノ賠償ヲ爲スヘキコトヲ命スルコトヲ要ス(明治三十一年法律第十一號ヲ以テ本條改正)

(解)

債務者ニ非サルハ爲シ能ハサル行爲ト繪畫彫刻等其人ニアラサレハ爲スヲ得サル者ヲ云フ此場合ハ債務者直接ニ履行ヲ命シ又ハ損害賠償ヲ命スルヨリ外ナキヲ以テ民法ニ從ヒ右二者ノ内ニ爲サシムルトセリ

第七百三十五條

前二條ノ決定ハ口頭辯論ヲ經スシテ之ヲ爲スコトヲ得但決定前債務者ヲ審訊ス可シ

(解)

本條ハ口頭辯論ヲ經スシテ前二條ノ決定ヲ爲スヲ得トセルハ確定シタル債權ニ對スル執行ナル故ニ別ニ口頭辯論ヲ經スシテ迅速ニ落着セシメンカ爲メナリ然レモ必要アルトキハ決定前審訊スヘキモノトセリ

第七百三十六條

債務者カ權利關係ノ成立ヲ認諾ス可キコト又ハ其

他ノ意思ノ陳述ヲ爲ス可キコトノ判決ヲ受ケタルトキハ其判決ノ確定ヲ以テ認諾又ハ意思ノ陳述ヲ爲シタルモノト看做ス反對給付ノ有リタル後認諾又ハ意思ノ陳述ヲ爲ス可キ場合ニ於テハ第五百十八條及ヒ第五百二十條ノ規定ニ從ヒ執行力アル正本ヲ付與シタルトキ其效力ヲ生ス

(解) 本條ニ權利關係ノ成立トハ或人ノ爲メ保證ノ義務ヲ認ムルヤ否ヤニ付キ爭論アリ此爭論ニ付キ認ムヘシトノ判決アリタルトキノ如キ又意思ノ陳述トハ或ル事ニ付キ意思ヲ陳述セシムルコトヲ求メ陳述スヘシトノ判決アリタルトキノ如キ場合ヲ是等ノ事ニ付キ判決アリタルトキハ事務ヲ認ムル人ニシテ認メサルモ意思ノ陳述スヘキ義務アルモノ陳述セサルモ判決ノ確定ニ依リ認諾又ハ陳述ヲ爲シタルモノト看做スヘキモノナリ此等ノ場合ニハ執行ヲ強ユルヲ得サルヲ以テナリ又反對給付トハ或ル行爲ヲ爲セシナラハ吾レモ行爲ヲ爲スト云フカ如キ場合ニシテ此場合ノ認諾又ハ意思ノ陳述ヲ爲ス場合ニ於テハ第五百十八條第五百二十條ニ從ヒ反對給付ニ關スル條件ヲ充テタルヲ立證シ執行力アル正本ヲ得ルニ因リテ認諾又ハ意思ノ陳述アリタルモノト看做サルノ效果ヲ生スルニ至ルモノナリ

第四章 假差押及ヒ假處分

第七百三十七條

假差押ハ金錢ノ債權又ハ金錢ノ債權ニ換フルヲ

得へキ請求ニ付キ動産又ハ不動産ニ對スル強制執行ヲ保全スル爲メ之ヲ爲スコトヲ得

假差押ハ未タ期限ニ至ラサル請求ニ付テモ亦之ヲ爲スコトヲ得

(解) 本條ハ假差押ヲ爲ス場合及ヒ其目的物ニ付キ規定シタリ抑假差押ハ假ノ處分ニシテ債務者カ債權者ニ對シ義務アルニ拘ラス裁判ノ確定セサルヲ奇貨トシ財産ノ隱蔽ヲ爲スノ恐アル爲メ此危險ヲ防ク爲メノ方法ニシテ動産又ハ不動産ニ對シテノミ行フヲ得ルモノニテ債務者ノ行爲不行爲ヲ目的トスル訴訟ニ付キテハ假差押ノ處分ヲ爲スヲ得サルトシテ又差押ヲ求ムルトハ其請求ノ權利ハ金錢ノ債權又ハ金錢ノ債權ニ換フルヲ得ヘキ事ニ限ルモノトス如此理由ヨリ差押ヲ爲スモノナレハ未タ期限ニ至ラサル請求ニ付テモ許セリ然ラサレハ不長ノ債權者ハ辯濟期ノ至ラサル前ニ財産ヲ處分シテ辯濟ヲ免ル、爲メノ救濟策トシテ最モ必用ナリ

第七百三十八條 假差押ハ之ヲ爲ササレハ判決ノ執行ヲ爲スコト能ハス又ハ判決ノ執行ヲ爲スニ著シキ困難ヲ生スル恐アルトキ殊ニ外國ニ於テ判決ノ執行ヲ爲スニ至ル可キトキハ之ヲ爲スコトヲ得

(解) 本條ヲ設ケタル理由ハ債權者ニ於テ確定判決ノ效力ニ依リ執行ヲ求ムル場合ニ其目的物ヲ失フノ危險ヲ慮リ之ヲ豫防トシテ保全ノ方法ヲ設ケタルモノナリ

第七百三十九條 假差押ノ命令ハ假ニ差押フ可キ物ノ所在地ヲ管轄

スル區裁判所又ハ本案ノ管轄裁判所之ヲ管轄ス

(解) 本條ハ假差押ノ管轄裁判所ヲ定メタリ而シテ本案ノ管轄裁判所又ハ假ニ差押フヘキ物ノ所在地ノ二トセリ之レ一般ノ管轄ト異ナル處ニシテ假差押ハ迅速ヲ貴フト執行保全ヲ目的トスルヨリ便宜上設ケタルモノナリ

第七百四十條 假差押ノ申請ニハ左ノ諸件ヲ掲ク可シ

第一 請求ノ表示若シ其請求カ一定ノ金額ニ係ラサルトキハ其價額

第二 假差押ノ理由タル事實ノ表示

請求及ヒ假差押ノ理由ハ之ヲ説明ス可シ

申請ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

(解) 本條ハ假差押ノ申請書ニ掲クヘキ要件ヲ定メタルモノニシテ假差押ヲ求ムルニハ必ラス之ヲ具備セサルヘカラス又請求及ヒ假差押ノ理由ヲ説明スルニアラサレハ許スヘカラス然ラサレハ他人ノ財産ヲ蹂躪スルノ不都合アル故ナリ口頭ヲ以テ之ヲ爲スヲ得ルトシタルハ迅速ヲ貴フ爲メ簡便法ヲ用井タルナリ

第七百四十一條 假差押ノ申請ニ付テノ裁判ハ口頭辯論ヲ經スシテ之ヲ爲スコトヲ得

請求又ハ假差押ノ理由ヲ疏明セサルトキト雖モ假差押ニ因リ債務者ニ生ス可キ損害ノ爲メ債務者カ裁判所ノ自由ナル意見ヲ以テ定ムル保證ヲ立テタルトキハ裁判所ハ假差押ヲ命スルコトヲ得又請求及ヒ假差押ノ理由ヲ疏明シタルトキト雖モ裁判所ハ保證ヲ立テシメ假差押ヲ命スルコトヲ得保證ヲ立テタルトキハ其保證ヲ立テタルコト及ヒ如何ナル方法ヲ以テ之ヲ立テタルコトヲ假差押ノ命令ニ記載ス可シ

(解) 假差押ハ急速ヲ要スルカ故口頭辯論ヲ要セス又假差押ヲ許スニハ其事狀ヲ疏明セサルヘカラサルモ債權者ニシテ保證ヲ立テ又ハ假差押ノ理由ヲ疏明シタルトキ等ニ命スルハ裁判所ノ自由ナリ然レモ保證ヲ立テタルト否トハ大ニ利害ノ關係ヲ有スル故其有無及ヒ其方法ハ差押命令ニ記載セサルヘカラス

第七百四十二條 假差押ノ申請ニ付テノ裁判ハ口頭ノ辯論ヲ爲ス場合ニ於テハ終局判決ヲ以テ之ヲ爲シ其他ノ場合ニ於テハ決定ヲ以テ之ヲ爲ス

假差押ノ申請ヲ却下シ又ハ保證ヲ立テシムル裁判ハ債務者ニ之ヲ通知スルコトヲ要セス

(解) 本條第一項前段ヲ設ケタルハ控訴ノ方法ニテ其判決ニ服セサルモノハ覆審ヲ求ムルヲ得テ後段決定ヲ以テ爲シタルトキハ異議ノミ申立ツルヲ得ルモノナルヨリ是レカ區別ヲ設ケタリ第二項ハ債務者ニ通知ヲ要セサルハ利害ノ關係ナキヲ以テノ故ナリ

第七百四十三條 假差押ノ命令ニハ假差押ノ執行ヲ停止スルコトヲ得ル爲メ又假差押命令ノ執行ハ命令ヲ言渡シ申立人ニ命令ヲ送達シタルヨリ十四日ノ期間ヲ徒過スルトキハ之ヲ爲スコトヲ許サス

(解) 假差押ハ債務者カ財産ヲ處分シテ義務ノ履行ヲ爲サ、ルヲ慮リテ執行ヲ至メニ爲スヘキモノナレハ債務者ニシテ金錢ヲ供托セシトキハ右ノ愛ヒナキ爲メ假差押執行ヲ停止スルモ取消スルモ差支ナキニ因レリ

第七百四十四條 債務者ハ假差押決定ニ對シ異議ヲ申立ツルコトヲ得此異議ニ付テハ假差押ノ取消又ハ變更ヲ申立ツル理由ヲ開示ス可シ異議ノ申立ハ假差押ノ執行ヲ停止セス

(解) 假差押ハ確定判決ニ依ラサル假處分ナレハ債務者ニ異議ヲ許スハ至當ナリ然レモ其理由ヲ開示セサルニ

於テハ許スヘキニアラス又此異議ヲ申立テタル爲メ假差押執行ノ停止ヲ許サス若シ停止スルトセハ債務者ハ
言ヲ異議ノ主張ニ托シ巧ミニ物件ノ處分ヲ爲シ假差押ヲ設ケタル精神ニ戻ルカ如キアアルニヨレリ

第七百四十五條 異議ノ申立アリタルトキハ裁判所ハ口頭辯論ノ爲
メ當事者ヲ呼出ス可シ

裁判所ハ終局判決ヲ以テ假差押ノ全部若クハ一分ノ認可、變更又ハ
取消ヲ言渡シ又自由ナル意見ヲ以テ定ムル保證ヲ立ツ可キコトノ
條件ヲ附シテ之ヲ言渡スコトヲ得

(解) 異議ノ申立ハ假差押決定ノ根據ヲ固ムルモノナレハ當事者ヲ呼出シ口頭辯論ヲ爲サシメタル結果事實ノ
關係明カナラシムルハ蓋シ必要ナリ而シテ裁判所ハ其調査シタル事實ニ依リ終局判決ヲ以テ假差押ノ全部若ク
ハ一部ノ認可變更又ハ取消ヲ言渡スモノナレトモ此等言渡シニ對シ必要ト認ムルトキハ保證ヲ立ツヘキ條件ヲ
附シテ言渡スハ裁判所ノ自由ナリ

第七百四十六條 本案ノ未タ繫屬セサルトキハ假差押裁判所ハ債務
者ノ申立ニ因リ口頭辯論ヲ經スシテ相當ニ定ムル期間内ニ訴ヲ起
ス可キコトヲ債權者ニ命ス可シ

此期間ヲ徒過シタル後ハ債務者ノ申立ニ因リ終局判決ヲ以テ假差押
ヲ取消ス可シ

(解) 債權者ハ債務者ニ對シ要求ノ權利アリト稱シテ假差押ヲ爲シ其儘打棄テ置カル、ニ於テハ債務者ノ迷惑
少ナカラス此場合ニハ差押裁判所ハ債務者ノ申立ニ依リ一定ノ期間内ニ訴ヲ起スヘキコトヲ債權者ニ命スルハ適
當ノ規定ナリ債權者ハ此命令ヲ受ケタルニ拘ハラズ一定ノ期間ニ訴ヲ起サヘルトキハ假差押ヲ取消スヘキモ
トシタルハ徒ニ債務者ノ財産ヲ差押ヘテ損失ヲ加ヘシムルカ如キヲ避クル爲メニ此規定ヲ設ケタルナリ

第七百四十七條 債務者ハ假差押ノ理由消滅シ其他事情ノ變更シタ
ルトキ又ハ裁判所ノ自由ナル意見ヲ以テ定ム可キ保證ヲ立テント
ノ提供ヲ爲シタルトキハ假差押ノ認可後ト雖モ假差押ノ取消ヲ申
立ツルコトヲ得

此申立ニ付テハ終局判決ヲ以テ之ヲ裁判ス其裁判ハ假差押ヲ命シ
タル裁判所又本案カ既ニ繫屬シタルトキハ本案ノ裁判所之ヲ爲ス
(解) 假差押認可後ニ債務者ニシテ債務ノ辯濟ヲ爲シ又ハ債權者ヨリ辯濟ノ猶豫得又ハ保證ヲ立テントノ提供
アリタルトキ假差押ノ必要ナキヲ以テ裁判所ハ申立ニ因リ取消ヲ命セサルヘカラス而シテ此申立ニ付テハ終局

判決ヲ以テ爲スヘキモノシテ決定ヲ以テ爲スヲ許サス又之レカ管轄ハ本案カ管轄スルト否トニ依リ區別シタルカ故之カ區別ニ從ヒテ管轄裁判所ニ於テ之カ判決ヲ爲スヘキナリ

第七百四十八條

假差押ノ執行ニ付テハ強制執行ニ關スル規定ヲ準用ス但以下數條ニ於テ差異ノ生スルトキハ此限ニ在ラス

(解) 本條ハ假差押ノ命令ヲ執行スルニハ如何ナル方法ヲ以テ爲スヘキカヲ定メタルモノナリ

第七百四十九條

假差押ノ命令ニハ其命令ヲ發シタル後債權者又ハ債務者ニ於テ承繼アル場合ニ限り執行文ヲ附記スルコトヲ要ス
假差押命令ノ執行ハ命令ヲ言渡シ又ハ申立人ニ命令ヲ送達シタルヨリ十四日ノ期間ヲ徒過スルトキハ之ヲ爲スコトヲ許サス
右執行ハ債務者ニ差押命令ヲ送達スル前ト雖モ之ヲ爲スコトヲ得

(解) 假差押ノ命令ハ執行文ノ附記ナキモ當該效力アルヲ原則トス然レトモ其命令ヲ發シタル後債權者又ハ債務者ニ承繼アル場合ニハ直チニ及ホスヲ得サルカ故執行文ノ附記 要スルコトセリ
又第二項ハ假差押ノ命令ヲ受ケタルニ拘ハラシ行ハサルハ權利ノ上ニ眠ルモノナレハ之ヲ爲スヲ許サス第三項ハ迅速ヲ要スル爲メノ規定ナリ

第七百五十條

動産ニ對スル假差押ノ執行ハ各差押ト同一ノ原則ニ從ヒテ之ヲ爲ス

債權ノ假差押ニ付テハ其命令ヲ發シタル裁判所ヲ以テ管轄執行裁判所トス

債權ノ假差押ニ付テハ第三債務者ニ對シ債務者ニ支拂ヲ爲スコトヲ禁スル命令ノミヲ爲スコシ

假差押ノ金錢ハ之ヲ供託ス可シ其他假差押物ノ競賣及ヒ假差押有價證券ノ換價ハ一時之ヲ爲サス然レトモ假差押物ニ著シキ價額ノ減少ヲ生スル恐アルトキ又ハ其貯藏ニ付キ不相應ナル費用ヲ生ス可キトキハ執行裁判所ハ申立ニ因リ其物ヲ競賣シ賣得金ヲ供託ス可キ旨ヲ執達吏ニ命スルコトヲ得

(解) 本條ハ假差押ノ命令ヲ執行スヘキ方法ヲ定メタルモノニシテ第一項乃至第三項ハ一讀明了ナルヲ以テ說明セズ第四項モ假差押當然ノ結果ヲ規定シタルモノニシテ之ヲ設ケタルハ假差押ニ依リ債務者ノ所有權ニ付處

分ヲ爲スハ危險ナルヲ以テ之ヲ許スヘキモノニアラス然レモ假差押物ニ著シキ價格ノ減小ヲ生スル恐レアルトキ又ハ貯蔵ニ就キ不利益ニ費用ヲ要スルトキハ利益ノ爲メ以外トシテ其處分ヲ許セリ

第七百五十一條 不動産ニ對スル假差押ノ執行ハ假差押ノ命令ヲ登記簿ニ記入スルニ因リテ之ヲ爲ス

(解) 本條ハ不動産ニ對スル假差押ノ場合ヲ規定シタルモノナリ

第七百五十二條 假差押執行ノ爲メ強制管理ヲ爲ス場合ニ於テハ保全ス可キ債權ニ相當スル金額ヲ取立テ之ヲ供託ス可シ

(解) 本條ハ假差押ハ未確定ノ債權ニ對シテ爲ス假ノ處分ナルカ故判決確定スルニ至ラサレハ果シテ債權者ニ於テ責任アルヤ否ヤ分明ナラス從テ是等未確定ノ債權者ニ拂渡サシムルコトヲ有ス故ニ收益アルニ從ヒ之ヲ供託シテ債權ヲ保全スルコト、定メ他日判決確定シテ債權者ニ於テ執行力ヲ有スルトキハ供託物ニ就キ處分ヲ爲スコトヲ得ルナリ

第七百五十三條 船舶ニ對スル假差押ノ執行ハ假差押ノ當時碇泊スル港ニ碇泊セシムルコトニ因リテ之ヲ爲ス裁判所ハ債權者ノ申立ニ因リ船舶ノ監守及ヒ保存ノ爲メ必要ナル處分ヲ爲ス

(解) 本條ハ船舶ニ對スル假差押ノ規定ヲ爲シタルモノナリ

第七百五十四條 假差押命令ニ於テ定メタル金額ヲ供託シタルトキハ執行裁判所ハ執行シタル假差押ヲ取消ス可シ
假差押ノ續行ニ付キ特別ノ費用ヲ要シ且之カ爲メ必要ナル金額ヲ債權者カ豫納セサルトキモ亦執行裁判所ハ假差押ノ取消ヲ命スルコトヲ得

右裁判ハ口頭辯論ヲ經スシテ之ヲ爲スコトヲ得
假差押ヲ取消ス決定ニ對シテハ即時抗告ヲ得スコトヲ得

(解) 本條ハ假差押ヲ取消ス二個ノ場合ヲ定メ即チ一ハ債務者ノ所爲ヲ以テ之レカ取消ヲ爲サシムルコト其二ハ假差押債權者ハ其責任ヲ怠ルヨリシテ之ガ取消ヲ命ズルニ至ルコト之レナリ而シテ此取消ヲ命ズル裁判ハ事實明ナルヲ以テ口頭辯論ヲ經ルノ必要ナク決定ヲ以テ言渡ヲ爲スヘキモノナリ此假差押取消ノ決定ハ債權ニ取リテ大關係ヲ有スルガ爲メ此決定ニ對シテ即時抗告ヲ許セリ

第七百五十五條 係争物ニ關スル假處分ハ現狀ノ讓更ニ因リ當事者一方ノ權利ノ實行ヲ爲スコト能ハス又ハ之ヲ爲スニ著シキ困難ヲ

生スル恐アルトキ之ヲ許ス

(解) 本條ハ假處分ノ規定ニシテ假處分トハ假リニ便宜處分ノ一ニテ即チ或ル行為ヲ命シ又ハ行為ヲ禁シ或ハ保管人ヲ置クカ如キヲ云フ而シテ此假處分ヲ爲スニハ係争物ノ現狀ノ變更ニ依リ當事者一方ノ權利ノ實行ヲ爲スニ能ハス又ハ之ヲ爲スニ著シキ困難ヲ生スル恐レアルトキ之ヲ許スヘキモノトセリ係争物ノ現狀ノ變更トハ假ヘハ一ノ建物ニ付キ所有權ヲ爭フモノ其訴訟未タ判決セラレサルニ先チ建物ヲ占有スルモノニ於テ之ヲ毀壞スルカ如キアラハ訴訟ノ結果ニヨリ所有權ヲ得タル者ニ於テハ現狀ノ變更タリ又著シキ困難アル恐レアルトキハ債務者ノ逃亡ヲ企ツルカ如キ之レナリ要スルニ之ヲ命ゼザレハ係争物ノ本体ニ變動ヲ生シ遂ニ當事者ノ意思ヲ全フスル能ハザルノ恐レアルトキハ之ヲ爲スヘキモノナリ

第七百五十六條 假處分ノ命令其他ノ手續ニ付テハ假差押ノ命令及ヒ手續ニ關スル規定ヲ準用ス但以下數條ニ於テ差異ノ生スルトキハ此限ニ在ラス

第七百五十七條 假處分ノ命令ハ本案ノ管轄裁判所之ヲ管轄ス右裁判ハ急迫ナル場合ニ於テハ口頭辯論ヲ經スシテ之ヲ爲スコトヲ得

(解) 本條ハ假處分ノ管轄裁判所及ヒ之レカ處分ヲ爲ス方法ヲ定メタルモノナリ

第七百五十八條 裁判所ハ其意見ヲ以テ申立ノ目的ヲ達スルニ必要ナル處分ヲ定ム

假處分ハ保管人ヲ置キ又ハ相手方ニ行為ヲ命シ若クハ之ヲ禁シ又ハ給付ヲ命スルコトヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

假處分ヲ以テ不動産ヲ讓渡シ又ハ抵當ト爲スコトヲ禁シタルトキハ裁判所ハ第七百五十一條ノ規定ヲ準用シテ登記簿ニ其禁止ヲ記入セシム可シ

(解) 假處分ノ請求ハ債權者ナルモ其方法ハ當事者ノ申立ニ拘束セラレ、一ナク裁判所ニ全ク自由ノ意見ニ依リ假處分請求者ニ於テ爲サントスル目的ヲ達セシムルタメ必要ナル處分ヲ定ムヘキトセリ第一項ハ其方法ヲ規定セリ第三項ヲ設ケタルハ善意ノ第三者ヲ保護スル爲メニ設ケタリ即チ善意ノ第三者ハ其不動産ニ權利ヲ得タルトキハ假處分ノ命令後ト雖モ此假處分ノ登記セラレサリシトキハ第三者タル權利獲得者ニ不動産上ノ權利ヲ讓與セザルヘカラサルヲ以テナリ故ニ假處分ノ命令ヲ登記簿ニ記入セシメサル間ハ第三者ニ對シ假處分ノ効力ナキモノトセリ

第七百五十九條 特別ノ事情アルトキニ限り保證ヲ立テシメテ假處

分ノ取消ヲ許スコト得

(解) 本條ハ已ニ處分ヲ命シタル後更ニ特別ノ申狀ノ爲メ取消ス場合ヲ定メタリ

第七百六十條 假處分ハ爭アル權利關係ニ付キ假ノ地位ヲ定ムル爲ニモ亦之ヲ爲スコトヲ得但其處分ハ殊ニ繼續スル權利關係ニ付キ著シキ損害ヲ避ケ若クハ急迫ナル強暴ヲ防ク爲メ又ハ其他ノ理由ニ因リ之ヲ必要トスルトキニ限ル

(解) 本條假ノ地位トハ一物件ニ付キ雙方其權利ヲ主張シ何レヲ以テ權利者トスルチ分ツ難キ場合ニ假リニ地位ヲ定ムルチ云フ然ラサレハ其物件ニ付キ損害ヲ及ホス一少ナカラサルチ以テ假處分ナル法ニ因リテ之ヲ命スル一トナセリ若シ夫レ之ヲ定メサルトキハ物件カ管理ノ外ニ置カレ争ノ終局スルニ於テハ至ク双方ノ目的トスル處ハ滅失スル至ルカ如キ一アルカ故ニ裁判所ハ假ニ權利者タルノ地位ヲ定メ以テ著シキ損害ヲ係争者ノ上來ルチ防ク爲メニ設ケタルモノナリ

第七百六十一條 急迫ナル場合ニ於テハ係争物ノ所在地ヲ管轄スル區裁判所ハ假處分ノ當否ニ付テノ口頭辯論ノ爲メ本案ノ管轄裁判所ニ相手方ヲ呼出スコキ申立ノ期間ヲ定メ假處分ヲ命スルコトヲ

得

此期間ヲ徒過シタル後區裁判所ハ申立ニ因リ其命シタル假處分ヲ取消スコシ

右裁判ハ口頭辯論ヲ經スシテ之ヲ爲スコトヲ得

(解) 本條ハ假處分ノ申立ヲ爲シタル場合ニ於テ其處分急迫ヲ要スルモノナルトキハ係争物ヲ管轄スル區裁判所ニ於テ口頭辯論ヲ經スシテ假處分ノ命令ヲ爲シ得ヘキ一ヲ定メタルモノナリ

第七百六十二條 本章ノ規定ニ於ケル本案ノ管轄裁判所ハ第一審裁判所トス但本案カ控訴審ニ繫屬スルトキニ限り控訴裁判所トス

(解) 本條ハ假差押處分ヲ管轄スル裁判所ハ物件所在地ノ區裁判所又ハ本案ノ訴訟ヲ管轄スヘキ第一審ノ裁判所タルヲ定メ但書ニ於テ本案ノ訴訟カ控訴審ニ繫屬スルトキニ限り第一審以外ノ控訴審ニテモ爲シ得ル一ヲ規定シタルモノナリ

第七百六十三條 急迫ナル場合ニ於テ口頭辯論ヲ要セサルモノニ限り裁判長ハ本章ノ申立ニ付キ裁判ナスコトヲ得

(解) 本條ハ事件急迫ナル爲メ口頭辯論ヲ經スシテ裁判ヲ爲スヘキトキニ限り裁判長ノミニテ裁判ヲ爲シ得ル一ヲ規定ナリ

第七編 公示催告手續

(解) 公示催告トハ訴訟當事者カ不明ナル場合ニ權利ノ届出請求ノ届出ヲ爲スニアラザレバ權利ヲ失墜スルニ至ルガ故所在不明ナル當事者ニ對シテ或ル事項ヲ公示シテ其手續ヲ留保セシムル手續ナリ

第七百六十四條 請求又ハ權利ノ届出ヲ爲サシムル爲メノ裁判上ノ公示催告ハ其届出ヲ爲ササルトキハ失權ヲ生スル效力ヲ以テ法律ニ定メタル場合ニ限り之ヲ爲スコトヲ得

公示催告手續ハ區裁判所之ヲ管轄ス

(解) 訴訟ノ當事者ニシテ或請求又ハ權利ノ届出ヲ爲スニアラザレバ權利ノ失墜ヲ生スルガ故此ノ場合ニハ其旨ヲ公示催告シテ届出テシメ失權ナキチ期スル爲メ本條設ケタリ而シテ此手續ハ區裁判所管轄ニシテ法律ニ定メタル場合ニ限ル事トセリ

第七百六十五條 公示催告ノ申立ハ書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得
此申立ニ付テノ裁判ハ口頭辨論ヲ經スシテ之ヲ爲スコトヲ得

申立ヲ許ス可キトキハ裁判所ハ公示催告ヲ爲スコク其公示催告ニハ殊ニ左ノ諸件ヲ掲ク可シ

第一 申立人ノ表示

第二 請求又ハ權利ヲ公示催告期日マテニ届出ツ可キコトノ催告

第三 届出ヲ爲ササルニ因リ生ス可キ失權ノ表示

第四 公示催告期日ノ指定

(解) 公示催告ノ申立ヲ爲ハ書面又ハ口頭ヲ以テ口頭辨論ヲ經ズシテ申立ツルヲ得ルトシタルハ便宜上ノ理由ニ出テ而シテ申立ヲ許スヘキトキハ裁判所ハ公示催告ヲ爲スヘク且其公示催告ニ掲クヘキ要件ヲ第一號乃至第四號トシタリ

第七百六十六條 公示催告ニ付テノ公告ハ裁判所ノ掲示板ニ掲示シ及ヒ官報又ハ公報ニ掲載シテ之ヲ爲シ其他法律ニ別段ノ規定ヲ設ケサルトキハ第五百五十七條第三項ノ規定ニ從ヒテ之ヲ爲ス

第七百六十七條 公示催告ヲ官報又ハ公報ニ掲載シタル日ト公示催告ノ期日トノ間ニハ法律ニ別段ノ規定ヲ設ケザルトキハ少ナクトモ二个月ノ時間ヲ存スルコトヲ要ス

第七百六十八條 公示催告期日ノ終タリル後ト雖モ除權判決前ニ届出ヲ爲ストキハ適當ナル時間ニ之ヲ爲シタルモノト看做ス

(解) 本條ハ失權ノ効力ヲ有スル時期ヲ以テ除權判決ノ時ト爲セリ故ニ公示催告ニ於テ定メタル届出ノ時期ヲ經過スルモ其届出ニシテ除權判決以前ナレハ適當ナル時間内ニ之ヲ爲シタルモノト見做シ届出ノ効力ヲ有セシムルコト定メタリ

第七百六十九條 除權判決ハ申立ニ因リテ之ヲ爲ス

右判決前ニ詳細ナル探知ヲ爲ス可キ旨ヲ命スルコトヲ得

除權判決ノ申立ヲ却下スル決定及ヒ除權判決ニ付シタル制限又ハ留保ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

(解) 本條第一項ハ説明スルノ要ナク第二項ハ除權判決ヲ與フルニ付キ十分ナル調査ヲ申立人ニ命シ其權利ヲ定メンカ爲メ殊ニ此規定ヲ爲シタルモノナリ又第三項ハ除權判決ノ申立人ニ不利益ナル決定ヲ豫想シタルモノ

ロシテ此決定ニ對シテハ申立人ハ即時公告ヲ爲スコト得ルコトセリ而シテ留保トハ除權判決ヲ與フルニ拘ハラズ尚ホ債權ノ申出ヲ爲スニ付キ或期間ヲ經過セサレハ其判決ヲ確定セシメス即チ除權判決ノ申立ノ却下又ハ制限セラルト共ニ申立人ニ對シテ不利益ナルモノナリ

第七百七十條 申立人ノ申立ノ理由トシテ主張シタル權利ヲ争フコトノ届出アリタルトキハ其事情ニ從ヒ届出テタル權利ニ付テノ裁判確定スルマテ公示催告手續ヲ中止シ又ハ除權判決ニ於テ届出テタル權利ヲ留保ス可シ

(解) 本條前段ニ届出テタル權利ニ就テノ裁判確定スルマテ公示催告手續ヲ中止ト規定シタルハ如斯爲スニアラサレハ申立人ニ對シ權利ヲ争ハントスルモノハ除權判決決定ノ爲メニ定メタル權利ヲ失フコトアルノミナラス此權利確定スルニ於テハ除權判決ハ爲スヲ要セサルコトアリ故ニ之ニ中止ヲ命スルハ必要ナリ又後段届出テタル權利ノ留保トハ之ガ中止ヲ爲サストスルモ權利ノ留保ヲナセハ除權判決ノ爲メ毫モ害ヲ受クルコトナク他日裁判ノ確定ニヨリ其權利ヲ行フコト得ルカ故ニ適當ノ規定ナリ

第七百七十一條 申立人カ公示催告期日ニ出頭セザルトキハ其申立

ニ因リ新期日ヲ定ム可シ此申立ハ公示催告期日ヨリ六个月ノ期間内ニ限リ之ヲ爲スコトヲ許ス

第七百七十二條 公示催告手續ヲ完結スル爲メ新期日ヲ定メタルトキハ其期日ノ公告ヲ爲スコトヲ要セス

第七百七十三條 裁判所ハ除權判決ノ重要ナル旨趣ヲ官報又ハ公報ニ掲載シテ公告ヲ爲スコトヲ得

第七百七十四條 除權判決ニ對シテハ上訴ヲ爲スコトヲ得ス

除權判決ニ對シテハ左ノ場合ニ於テ申立人ニ對スル訴ヲ以テ催告裁判所ノ所在地ヲ管轄スル地方裁判所ニ不服ヲ申立ツルコトヲ得

第一 法律ニ於テ公示催告手續ヲ許ス場合ニ非サルトキ

第二 公示催告ニ付テノ公告ヲ爲サス又ハ法律ニ定メタル方法ヲ以テ公告ヲ爲ササルトキ

第三 公示催告ノ期間ヲ遵守セサルトキ

第四 判決ヲ爲ス判事カ法律ニ依リ職務ノ執行ヨリ除斥セラレ

タルトキ

第五 請求又ハ權利ノ届出アリタルニ拘ハラヌ判決ニ於テ其届

出ヲ法律ニ從ヒ願ミサルトキ

第六 第四百六十九條第一號乃至第五號ノ場合ニ於テ原狀回復

ノ訴ヲ許ス條件ノ存スルトキ

(解) 本條ハ除權判決ニ對スル上訴ノ場合ヲ規定シタルモノナリ除權判決ニ對シテハ上訴ヲ許サ、ルヲ以テ原則トス故ニ之レカ判決ヲ與ヘタルトキハ之ヲ與フルト共ニ確定スルモノニシテ一般ニ上訴期間ヲ俟タス其判決ハ實行セラルヘキナリ
然レモ或ル場合ニハ其判決ヲ改ムルニアラサレハ不都合ヲ生スルコトアリ此場合ニ於テハ訴ヲ以テ争フコト得ルモ此訴ハ上訴トシテ爲サシムルニアラスシテ之レガ救濟ヲ與ヘタルモノナリ而シテ第一號乃至第六號ノ中其一ヲ理由トスルトキニ限り許スヘキモノトセリ

第七百七十五條 不服申立ノ訴ハ一个月ノ不變期間内ニ之ヲ起ス可シ此期間ハ原告カ除權判決ヲ知リタル日ヲ以テ始マル然レトモ前條第四號及ヒ第六號ニ掲ケタル不服申立ノ理由ノ一ニ基キ訴ヲ起

シ且原告カ右ノ日ニ其理由ヲ知ラサリシ場合ニ於テハ其期間ハ不服ノ理由ノ原告ニ知レタル日ヲ以テ始マル除權判決ノ言渡ノ日ヨリ起算シテ五今年ノ滿了後ハ此訴ヲ起スコトヲ得ス

(解) 本條ハ除權判決ニ對シ不服ノ訴ヲ爲スヲ得ベキ期間ヲ定メタルモノナリ

第七百七十六條 裁判所ハ第二百二十條ノ條件ノ存セサルトキト雖モ數箇ノ公示催告ノ併合ヲ命スルコトヲ得

第七百七十七條 盜取セラレ又ハ紛失若クハ滅失シタル手形其他商法ニ無効ト爲シ得ヘキコトヲ定メタル證書ノ無効宣言ノ爲ニ爲ス公示催告手續ニ付テハ以下數條ノ特別規定ヲ適用ス

此規定ハ法律上公示催告手續ヲ許ス他ノ證書ニ付キ其法律中ニ特別規定ヲ設ケサル限リハ之ヲ適用ス

(解) 本條ハ盜取セラレ滅失紛失其他ノ理由ヨリ手形ノ無効トナル場合ニハ以下數條ノ特別規定ヲ適用ストノ

ヲ定メタルモノナリ

第七百七十八條 無記名證券又ハ裏書ヲ以テ移轉シ得ヘク且畧式裏書ヲ付シタル證書ニ付テハ最終ノ所持人公示催告手續ヲ申立ツル權アリ

此他ノ證書ニ付テハ證書ニ因リ權利ヲ主張シ得ヘキ者此申立ヲ爲ス權アリ

(解) 本條ハ無記名證券又ハ裏書ヲ以テ移轉シ得ヘキ證券ニシテ略式證書ヲ附シタル證書ニ付キ公示催告ヲ申立ツル權利アルモノ及ヒ其他ノ證書ニ付申立ヲ爲シ得ベキ權利アルモノヲ定メタルモノナリ而シテ是等證券ノ所持人ニシテ公示催告手續ヲ申立ツルモノハ最終ノ所持人タリトシタルハ該證券ニ付キ最終ニ所持セルモノハ直接利害ノ關係アルニ依レリ

第七百七十九條 公示催告手續ハ證書ニ表示シタル履行地ノ裁判所之ヲ管轄ス若シ證書ニ其履行地ヲ表示セサルトキハ發行人カ普通裁判籍ヲ有スル地ノ裁判所之ヲ管轄シ其裁判所ナキトキハ發行人カ發行ノ當時普通裁判籍ヲ有セシ地ノ裁判所之ヲ管轄ス

證書ヲ發行スル原因タル請求ヲ登記簿ニ記入シタルトキハ其物ノ所在地ノ裁判所ノ管轄ニ專屬ス

(解) 本條ハ公示催告手續ヲ管轄スヘキ裁判所ヲ定メタルモノナリ而シテ第一項ハ説明ヲ要セスシテ明了ナルモ第二項ヲ設ケタルハ即チ不動産ニ對シテ設ケタル權利ノ原因トシテ證書面ノ支辨ヲ爲スト云フカ如キ場合ニシテ此場合ニハ證書ノ効力ハ最モ不動産ト關係ヲ有スルニ密接ナルヲ以テ其物ノ所在地ノ裁判所ニ於テ之レカ管轄ヲ爲ストセリ

第七百八十條 申立人ハ申立ノ憑據トシテ左ノ手續ヲ爲ス可シ

第一 證書ノ謄本ヲ差出シ又ハ證書ノ重要ナル旨趣及ヒ證書ヲ十分ニ認知スルニ必要ナル諸件ヲ開示スルコト

第二 證書ノ盜難紛失滅失及ヒ公示催告手續ヲ申立ツルコトヲ得ルノ理由タル事實ヲ説明スルコト

(解) 本條ハ公示催告申立人カ申立ノ憑據トシテ爲ス手續ヲ定メタリ本條ニ設ケタル理由ハ公示催告ヲ以テ之ガ無効ヲ宣言スル處ノ證書ガ何レノ證書ナルヲ判別スルニ足ル事實ハ之ヲ申供セザルアルヲ以テナリ而シテ公示催告手續ヲ申立ツルニ得ルノ理由タル事實ハ説明セザルヘカラサルハ勿論ナリ

第七百八十一條 公示催告中ニ公示催告期日マテニ權利ヲ裁判所ニ

届出テ且其證書ヲ提出スベキ旨ヲ證書ノ所特人ニ催告スヘク又失權トシテ證書ノ無効宣言ヲ爲スベキ旨ヲ戒示スヘシ

(解) 本條ハ裁判所ニ於テ公示催告ヲ爲ス場合ニ於テ其催告中ニ掲クル要件ヲ規定シタルモノナリ

第七百八十二條 公示催告ノ公告ハ裁判所ノ揭示板ニ揭示シ且官報又ハ公報ニ掲載シ及ヒ新聞紙ニ三回掲載シテ之ヲ爲ス

公示催告裁判所ノ所在地ニ取引所アルトキハ取引所ニモ亦此公告ヲ揭示スヘシ

本條ハ公示催告ノ公告方法ヲ定メタルモノナリ

第七百八十三條 公示催告ヲ官報又ハ公報ニ掲載シタル日ト公示催告期日トノ間ニハ少ナクトモ六個月ノ時間ヲ存スルコトヲ要ス

(解) 本條ハ公示催告ノ公告ト期日トノ間ニ存スル時間ヲ定メタルモノナリ

第七百八十四條 除權判決ニ於テハ證書ヲ無効ナリト宣言ス可シ
除權判決ノ重要ナル旨趣ハ官報又ハ公報ヲ以テ之ヲ公告ス可シ

不服申立ノ訴ニ因リ判決ヲ以テ無効宣言ヲ取消シタルトキハ其判決ノ確定後官報又ハ公報ヲ以テ之ヲ公告ス可シ

(解) 本條ハ除權判決ノ言渡及ヒ公告方法ヲ定メタルモノナリ

第七百八十五條

除權判決アリタルトキハ其申立人ハ證書ニ因リ義務ヲ負擔スル者ニ對シテ證書ニ因レル權利ヲ主張スルコトヲ得

(解) 本條ハ除權判決ノ効果ヲ定メタルモノニシテ是レヲ設ケタルハ公示催告申立人ハ此權利ヲ主張セシメンガ爲メ其手續ヲ盡ス爲メナルヲ知ルヘシ

第八編 仲裁手續

第七百八十六條

一名又ハ數名ノ仲裁人ヲシテ争ノ判斷ヲ爲サシムル合意ハ當事者カ係争物ニ付キ和解ヲ爲ス權利アル場合ニ限り其效力ヲ有ス

(解) 係争物ノ當事者ニシテ係争物ニ付仲裁人ヲシテ争ノ判斷ヲ爲サシムル合意ヲ爲シタルトキハ此合意ハ和解ヲ爲スヲ得ル權利ニ限り之ヲ爲スヲ得ルモノニシテ此權利以外ニ仲裁人ヲシテ判斷セシムルヲ許サス而シテ之ヲ許サハルハ一ノ和解ト見做ニ依ルナリ若シ夫レ然ラストセンカ仲裁人ノ爲シタル行爲ハ裁判官ノ爲シタル行爲ト同一視サレ不都合少ナカラサレハナリ

第七百八十七條

將來ノ争ニ關スル仲裁契約ハ一定ノ權利關係及ヒ一其關係ヨリ生スル争ニ關セサルトキハ其效力ヲ有セス

(解) 本條ヲ設ケタル理由ハ將來ニ於テハ如何ナル争ノ生スルヤ不明ナルカ故ニシテ若シ是等不明ノ事項ヲ仲裁人ニ任セルハ不都合ナルヲ以テナリ

第七百八十八條

仲裁契約ニ仲裁人ノ選定ニ關スル定ナキトキハ當事者ハ各一名ノ仲裁人ヲ選定ス

(解) 本條ハ仲裁人選定方法ヲ定タルモノナリ

第七百八十九條 當事者ノ雙方カ仲裁人ヲ選定スル權利ヲ有スルトキハ先ニ手續ヲ爲ス一方ハ書面ヲ以テ相手方ニ其選定シタル仲裁人ヲ指示シ且七日ノ期間内ニ同一ノ手續ヲ爲ス可キ旨ヲ催告ス可シ

右期間ヲ徒過シタルトキハ管轄裁判所ハ先ニ手續ヲ爲ス一方ノ申立ニ因リ仲裁人ヲ選定ス

(解) 本條ハ仲裁契約ニ於テ當事者双方ニ於テ仲裁人ヲ撰定スヘキナリ明約シテ其撰定權ヲ有スル場合及ヒ仲裁撰定ノ方法ヲ定メタリ

第七百九十條 當事者ノ一方ハ相手方ニ仲裁人選定ノ通知ヲ爲シタル後ハ相手方ニ對シテ其選定ニ羈束セラル

(解) 本條ハ相手方ニ對シテ其撰定ニ羈束セラルトハ已ニ仲裁人ヲ撰定シテ指示シタル上ハ隨意ニ變更ヲ爲スヲ得ストノ意ナリ

第七百九十一條 仲裁契約ヲ以テ選定シタルニ非サル仲裁人カ死亡

シ又ハ其他ノ理由ニ因リ欠缺シ又ハ其職務ノ引受若クハ施行ヲ拒ミタルトキハ其仲裁人ヲ選定シタル當事者ハ相手方ノ催告ニ因リ七日ノ期間内ニ他ノ仲裁人ヲ選定ス可シ此期間ヲ徒過シタルトキハ管轄裁判所ハ其催告ヲ爲シタル者ノ申立ニ因リ仲裁人ヲ選定ス可シ

(解) 本條ハ當事者ニ於テ撰定シタル仲裁人ハ仲裁契約ニヨリ撰定シタルモノニアラサルトキ又ハ其他仲裁人ニ變更アリタルトキノ規定ニシテ是等ノ場合ニハ一方ノ仲裁人不時ノ變ニ依リ欠缺シタルモノナルガ故法律ニ於テ之ヲ補フヘキ方法ヲ規定スルハ必要ナリ之レ本條ノ設ケアル所以ナリ

第七百九十二條 當事者ハ判事ヲ忌避スル權利アルト同一ノ理由及ヒ條件ヲ以テ仲裁人ヲ忌避スルコトヲ得此他仲裁契約ヲ以テ選定シタルニ非サル仲裁人カ其責務ノ履行ヲ不當ニ遲延スルトキハ亦之ヲ忌避スルコトヲ得無能力者、聾者、啞者及ヒ公權ノ剝奪又ハ停止中ノ者ハ之ヲ忌避スル

コトヲ得

(解) 仲裁人ハ他人ノ係争事項ヲ判断スル重任アル者ナレハ公平ニシテ偏頗ノ所爲アルヘカラス若シ夫不公平偏頗ノ恐レアルトキハ當事者ハ判事ヲ忌避スルト同一ノ理由ニヨリ忌避スルハ當然ノ一タリ而シテ本條ハ忌避ノ場合ヲ規定シタルモノナリ

第七百九十三條 仲裁契約ハ當事者ノ合意ヲ以テ左ノ場合ノ爲メ豫定ヲ爲ササリシトキハ其效力ヲ失フ

第一 契約ニ於テ一定ノ人ヲ仲裁人ニ選定シ其仲裁人ノ或人ガ
カ死亡シ又ハ其他ノ理由ニ因リ欠缺シ又ハ其職務ノ引受ヲ拒
ミ又ハ仲裁人ノ取結ヒタル契約ヲ解キ又ハ其責務ノ履行ヲ不
當ニ遅延シタルトキ

第二 仲裁人カ其意見ノ可否同數ナル旨ヲ當事者ニ通知シタル
トキ

(解) 仲裁契約ニシテ完全ニ效力アラシムルニハ豫メ契約ヲ以テ其事項ヲ定ムルノ必要ナリ然ラサレハ後日ニ至リ係争ノ種子トナリテ折角ノ契約モ其效力ヲ生セサルニ至ルガ如キアレハナリ故ニ本條ハ仲裁契約ハ或ル

事項ヲ合意ヲ以テ定メサル場合ニ無効トナルヲ規定シタリ

第七百九十四條 仲裁人ハ仲裁判断前ニ當事者ヲ審訊シ且必要トス
ル限リハ争ノ原因タル事件關係ヲ探知ス可シ

仲裁手續ニ付キ當事者ノ合意アラサル場合ニ於テハ其手續ハ仲裁
人ノ意見ヲ以テ之ヲ定ム

(解) 仲裁人ニ於テ仲裁判断前ニ當事者ヲ審訊シ争ノ原因タル事件ノ關係ヲ探知スヘシトシタルハ公平ナル仲
裁判斷ヲナサンカ爲メナリ若シ仲裁人ニシテ當事者ヲ審訊スルヲ得ス又ハ事件ノ關係ヲ知ラサランカ到底完
全ノ判断ヲ爲スヲ得サルハ明カナリ是レ本條一項ニ於テ其關係ヲ規定シタル所以ナリ而シテ仲裁手續ニ付キ
當事者合意アレハ其合意ニ從フヘキモノナルモ然ラサルトキハ仲裁人ノ意見ニテ定ムルニアラサレハ其事件ノ
落着キ見ルヲ得サルニヨレリ

第七百九十五條 仲裁人ハ其面前ニ任意ニ出頭スル證人及ヒ鑑定人
ヲ訊問スルコトヲ得

仲裁人ハ證人又ハ鑑定人ヲシテ宣誓ヲ爲サシムル權ナシ

(解) 仲裁人ハ裁判官ニアラサルカ故證人鑑定人ヲ呼出シ宣誓ヲ爲サシムルコトヲ得サルハ勿論タリ故ニ本條
ハ仲裁人ハ其面前ニ任意ニ出頭シタルモノニ限り證人鑑定人トシテ訊問スルヲ得ト規定シタル所以ナリ而シ

テ仲裁人ニ此等ノ行爲ヲ許セルハ其事件ノ關係ヲ明白ナラシムルニ於テ最も必要ナリ

第七百九十六條

仲裁人ノ必要ト認ムル判斷上ノ行爲ニシテ仲裁人

ノ爲スコトヲ得サルモノハ當事者ノ申立ニ因リ管轄裁判所之ヲ爲

ス可シ但其申立ヲ相當ト認メタルトキニ限ル

證人又ハ鑑定人ニ供述ヲ命シタル裁判所ハ證據ヲ述フルコト又ハ鑑定ヲ爲スコトヲ拒ミタル場合ニ於テ必要ナル裁判ヲモ亦爲ス權アリ

(解) 仲裁判斷ヲ爲スニ當リ仲裁人ハ其事件ノ關係ヲ明白トラシムル爲メニハ宣誓ヲ爲サシメタル證人鑑定人ノ訊問ヲ必要トスルコトアラシク故ニ若シ仲裁人ノ必要ト認ムル判斷上ノ行爲ニシテ仲裁人ノ爲スコトヲ得サル行爲ニ付テハ勢ヒ當事者他ノ救濟策ヲ採ラザルヘカラズ此場合ニハ當事者ノ申立ニヨリ管轄裁判所ニ於テ爲ヘキモノトセリ而シテ裁判所ニ於テ申立ヲ理由アリトシ證人鑑定人ヲ命ジタルトキハ證人鑑定人タルモノハ裁判所ノ命令ニ從ヒ公義務ヲ帶フルモノナレハ若シ此公義務ニ背キタルトキハ罰金ノ處分ヲ受クルコトアルハ免ルコトヲ得サルナリ如此仲裁人ハ完全ノ仲裁判斷ヲ爲スコトヲ得ルナリ

第七百九十七條

仲裁人ハ當事者カ仲裁手續ヲ許ス可カラサルコト

ヲ主張スルトキ殊ニ法律上有效ナル仲裁契約ノ成立セサルコト、仲裁契約カ判斷ス可キ爭ニ關係セサルコト又ハ仲裁人カ其職務ヲ履行スル權ナキコトヲ主張スルトキト雖モ仲裁手續ヲ續行シ且仲裁判斷ヲ爲スコトヲ得

(解) 本條ハ仲裁人カ仲裁判斷ヲ爲スハ當事者ノ異議ノ爲メニ妨ケラレザルコトヲ規定シタルモノナリ而シテ本條ニ於テ斯ク規定ヲ爲シタルハ要スルニ仲裁判斷ニ依リ不利益ヲ蒙ルモノガ徒ニ遲延セシムルニ過ギザルモノナレハ法律ハ如此場合ニモ尚ホ仲裁人ニ仲裁判斷ヲ爲サシムルコトヲ許ス

第七百九十八條

數名ノ仲裁人カ仲裁判斷ヲ爲ス可キトキハ過半數

ヲ以テ其判斷ヲ爲ス可シ但仲裁契約ニ別段ノ定アルトキハ此限ニ在ラス

(解) 本條ハ仲裁人カ仲裁判斷ヲ爲ス方法ヲ定メタルモノナリ

第七百九十九條

仲裁判斷ニハ其作リタル年月日ヲ記載シテ仲裁人

之ニ署名捺印スベシ

仲裁人ノ署名捺印シタル判斷ノ正本ハ之ヲ當事者ニ送達シ其原本

ハ送達ノ證書ヲ添ヘテ管轄裁判所ノ書記課ニ之ヲ預ケ置ク可シ

(解) 本條ハ仲裁判斷ノ終了ニ依リ仲裁人ノ爲ス可キ手續ヲ定メタリ即チ仲裁判斷ニ年月日及ヒ仲裁人ノ署名捺印ヲ要スルハ後日紛争ノ起リタルトキノ證明ノ用ニ供スル爲ノニ外ナラズ又判斷書ニ當事者ニ送達スルハ其終了ノ結果ヲ知ラシムル爲メニシテ原本ヲ管轄裁判所ニ送附セシムルハ他日ノ必要ニ供應セシメンガ爲メナリ

第八百條 仲裁判斷ハ當事者間ニ於テ確定シタル裁判所ノ判決ト同一ノ效力ヲ有ス

(解) 仲裁判斷モ事實ノ調査ヲ爲シテ是非ヲ判斷セシモノナレハ當事者間ニ於テハ此判斷ニ服従スヘキハ勿論ナルカ故ニ本條ニ於テ確定シタル裁判所ノ判決ト同一ノ效力アリトセリ從テ義務者ト判斷セラレタルモノハ其義務ノ本主ニ依リ義務ノ履行ヲ爲サヘルヘカラス若シ義務者ニシテ故ナク義務ヲ怠ルトキハ權利者ハ強制執行ヲ爲ス可キ得ヘキ也

第八百一條 仲裁判斷ノ取消ハ左ノ場合ニ於テ之ヲ申立ツルコトヲ得

第一 仲裁手續ヲ許ス可カラザリシトキ

第二 仲裁判斷カ法律上禁止ノ行爲ヲ爲ス可キ旨ヲ當事者ニ言渡シタルトキ

第三 當事者カ仲裁手續ニ於テ法律ノ規定ニ從ヒ代理セラレザ

リシトキ

第四 仲裁手續ニ於テ當事者ヲ審訊セザリシトキ

第五 仲裁判斷ニ理由ヲ付セザリシトキ

第六 第四百六十九條第一號乃至第五號ノ場合ニ於テ原狀回復

ノ訴ヲ許ス條件ノ存スルトキ

仲裁判斷ノ取消ハ當事者カ別段ノ合意ヲ爲シタルトキハ本條第四號及ヒ第五號ニ掲ケタル理由ニ因リ之ヲ爲スコトヲ得ス

(解) 本條ハ仲裁判斷ノ取消ヲ申立テ得ル場合ヲ定メ而シテ第一號乃至第六號中其一アル場合ニハ爲ス可キ得トセリ今一々説明スルヲ止メ大要ヲ説明スヘシ
是等第一號乃至第六號ノ事項ハ法律ニ於テ爲スヘカラサルコトヲ爲シ又ハ法律ノ規定ニ背キテ爲シモノナレハ元來無効ノ行爲タリ無効ノ行爲ニ付テハ當事者ハ服従スヘキモノニアラサレハ此ノ如キ場合ニ取消ヲ申立テタルトキハ之ヲ許スヘキハ至當ナリ然レモ當事者ニシテ本條第四號第五號ノ場合ニ付キ別段ノ合意アリタルトキハ之レカ取消ノ申立ヲ爲ス可キ得サルハ明ナリ

第八百二條 仲裁判斷ニ因リ爲ス強制執行ハ執行判決ヲ以テ其許ス

可キコトヲ言渡シタルトキニ限リ之ヲ爲スコトヲ得
右執行判決ハ仲裁判斷ノ取消ヲ申立ツルコトヲ得ヘキ理由ノ存ス
ルトキハ之ヲ爲スコトヲ得ス

(解) 當事者ハ仲裁判斷ノ主趣ニ基キ義務ノ履行ヲ爲スヘキモノナリ若シ故ナク其履行ヲ怠ルトキハ強制執行
ヲ以テ履行セシムルハ蓋シ止ムヲ得サルナリ然レモ仲裁判斷ハ判決ニアラサルカ故ニ此判斷ニ依リ強制執行ヲ
求メントセハ法律ハ執行判決ヲ以テ許スヘキコトヲ言渡シタルトキニ限ルトセリ而シテ此執行判決ハ仲裁判斷
ノ取消ヲ申立ツルヲ得ヘキ理由ノ存セサルトキ限ルモノニテ若シ取消ノ理由アルハ之カ判決ヲ與フヘカラ
サルハ當然ナリ

第八百三條

執行判決ヲ爲シタル後ハ仲裁判斷ノ取消ハ第八百一條

第六號ニ掲ケタル理由ニ因リテノミ之ヲ申立ツルコトヲ得但當事
者カ自己ノ過失ニ非スシテ前手續ニ於テ取消ノ理由ヲ主張スル能
ハサリシコトヲ疏明シタルトキニ限ル

(解) 執行判決ハ確定判決ト同一ノ效力アルモノナレハ當事者ニ於テ仲裁判斷ノ取消ヲ申立ツルヲ得サルモ
ノナリ若シ執行判決ヲ受ケタル後マテ取消スヲ得ルトセンカ是レ法律ノ效力ヲ無視スルモノニテ不法ノ甚シ
キモノナリ然レモ第八百一條第六號ノ場合ニハ例外トシテ許サヘルヘカラス其理由ハ當事者ニ於テ仲裁判斷後

執行判決前ニ其原由アルヲ知ラサルカ故ナリ知ラサル者チ知リタルモノト強ユルハ是レ堅キチ強ユル
不都合チ生スルカ故ニ此場合ニハ其知ラサルハ自己ノ過失ニ非ラスシテ前手續ニ於テ取消ノ理由ヲ主張スル
ヲ得サルヲ疏明シタルトキハ執行判決後ト雖モ取消ヲ申立ツルヲ得トシタルハ適當ノ規定ト云フ可シ

第八百四條

仲裁判斷取消ノ訴ハ前條ノ場合ニ於テハ一个月ノ不變

期間内ニ之ヲ起ス可シ

右期間ハ當事者カ取消ノ理由ヲ知リタル日ヲ以テ始マル然レトモ
執行判決ノ確定前ニハ始マラサルモノトス但執行判決ノ確定ト爲
リタル日ヨリ起算シテ五ヶ年ノ滿了後ハ此訴ヲ起スコトヲ許サス
仲裁判斷ヲ取消ストキハ執行判決ノ取消ヲモ亦言渡ス可シ

(解) 仲裁判斷取消ノ訴ハ一ヶ月ノ不變期間内ニ之ヲ起スヘキモノナリ不變期間トハ當事者ノ合意等ニ依リ變
更スルヲ得サル期間ノ謂ニシテ此期間ハ當事者ニ於テ取消ノ原因アリタルヲ知リタル日ヨリ始マルモノニシ
テ若シ其原由ヲ知リタル日ハ執行判決前ナレハ確定ノトキヨリ起算スヘキモノナリ然レモ執行判決確定トナタ
タル日ヨリ起算シテ五ヶ年ノ滿了後ハ之ヲ許スヘキモノニアラス五ヶ年ノ滿了後尙ホ許ストセハ確定期ナク不
都合少ナカラサレハナリ

末項ニ仲裁判斷ヲ取消ストキハ執行判決ヲモ亦取消ス可シトアルハ是レ取りモ直サス其根本ニ誤謬アリトシテ

取消ス以上ハ其枝葉タル執行判決ノ無効タルハ明カナレハ自然ト取消サ、ル可カラサルニ因レリ

第八百五條 仲裁人ヲ選定シ若クハ忌避スルコト、仲裁契約ノ消滅スルコト、仲裁手續ヲ許ス可カラサルコト、仲裁判斷ヲ取消スコト又ハ執行判決ヲ爲スコトヲ目的トスル訴ニ付テハ仲裁契約ニ指定シタル區裁判所又ハ地方裁判所之ヲ管轄シ其指定ナキトキハ請求ヲ裁判上主張スル場合ニ於テ管轄ヲ有ス可キ區裁判所又ハ地方裁判所之ヲ管轄ス

前項ニ依リ管轄ヲ有スル裁判所數箇アルトキハ當事者又ハ仲裁人カ最初ニ關係セシメタル裁判所之ヲ管轄ス

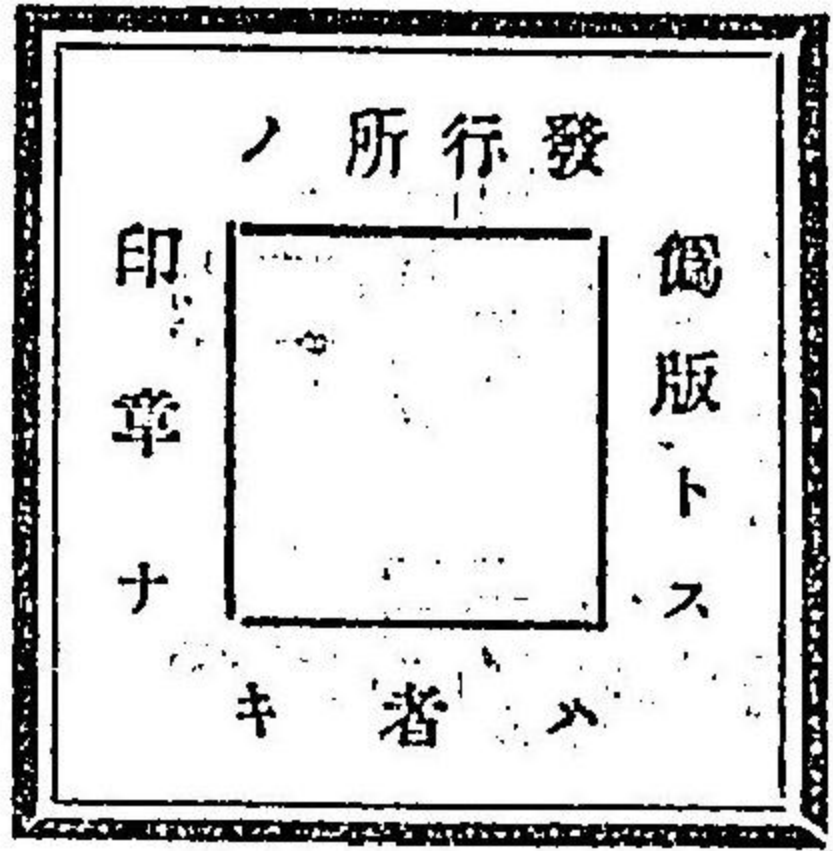
(解) 本條ハ仲裁判斷ニ關スル裁判管轄ヲ規定シタリ

仲裁判斷ヲ爲スニ付キ仲裁人ヲ選定シ若クハ忌避シ又ハ仲裁判斷ノ取消等ノ目的トスル訴ニ關スル管轄ハ當事者ノ合意ニ因リテ定マルカ故ニ別ニ疑ナキモ當事者ニシテ之レカ合意ヲ爲サノルトキハ何レノ裁判所ニ於テ管轄スヘキヤ不明ナリ此場合ニハ法律ハ請求ヲ裁判上主張スル片ニ於テ管轄スヘキ區裁判所又ハ地方裁判所トシ且仲裁契約ヲ爲ス處ノ當事者數人アルトキ又ハ仲裁契約ノ管轄數箇アル片ハ當事者又ハ仲裁人カ最初ニ關

係セシメタル裁判所之ヲ管轄スト定メタリ是レ最初ノ裁判所ハ裁判事件ニ付キ調査上便宜アルニ因レリ

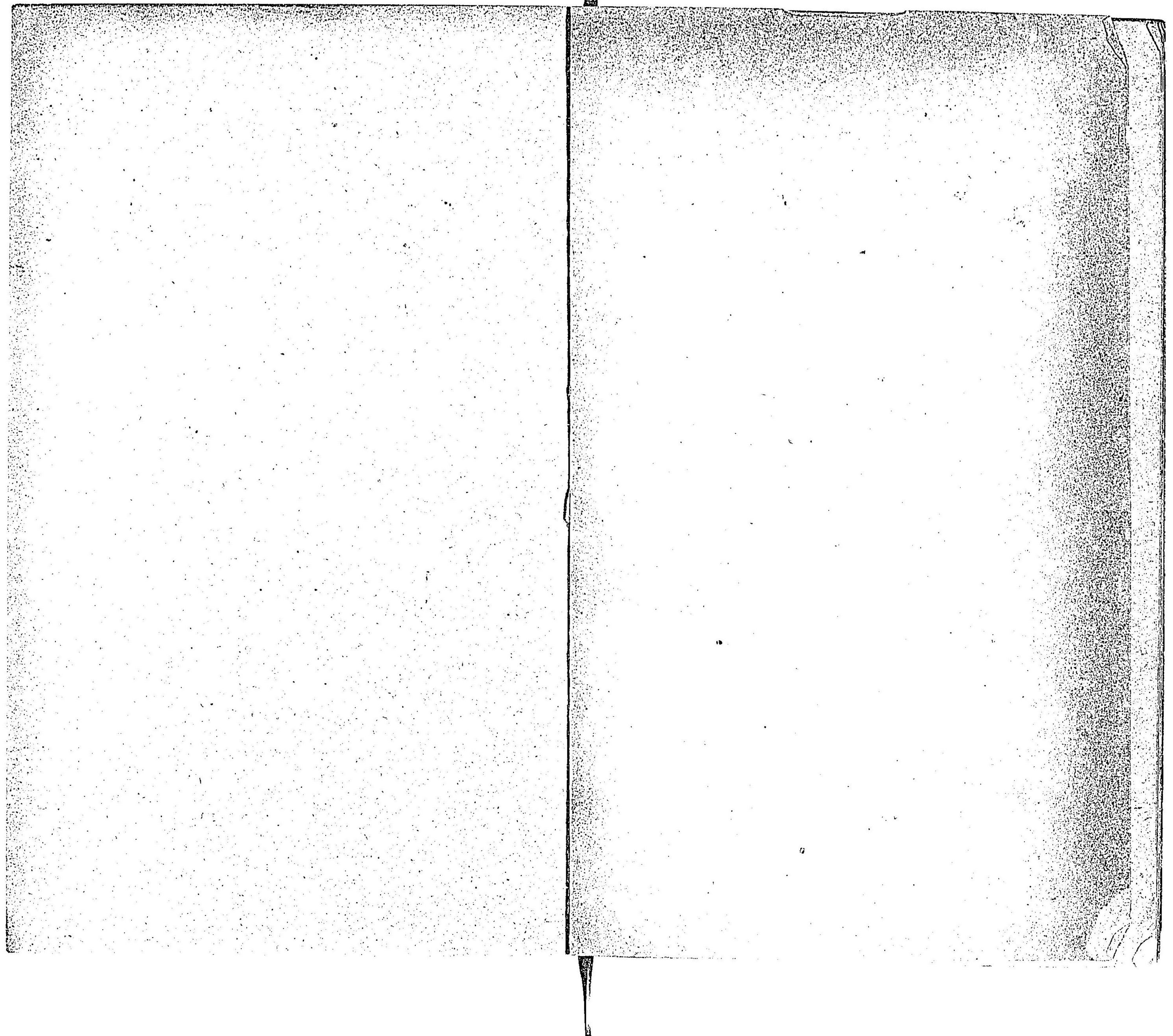
28/105

86
70

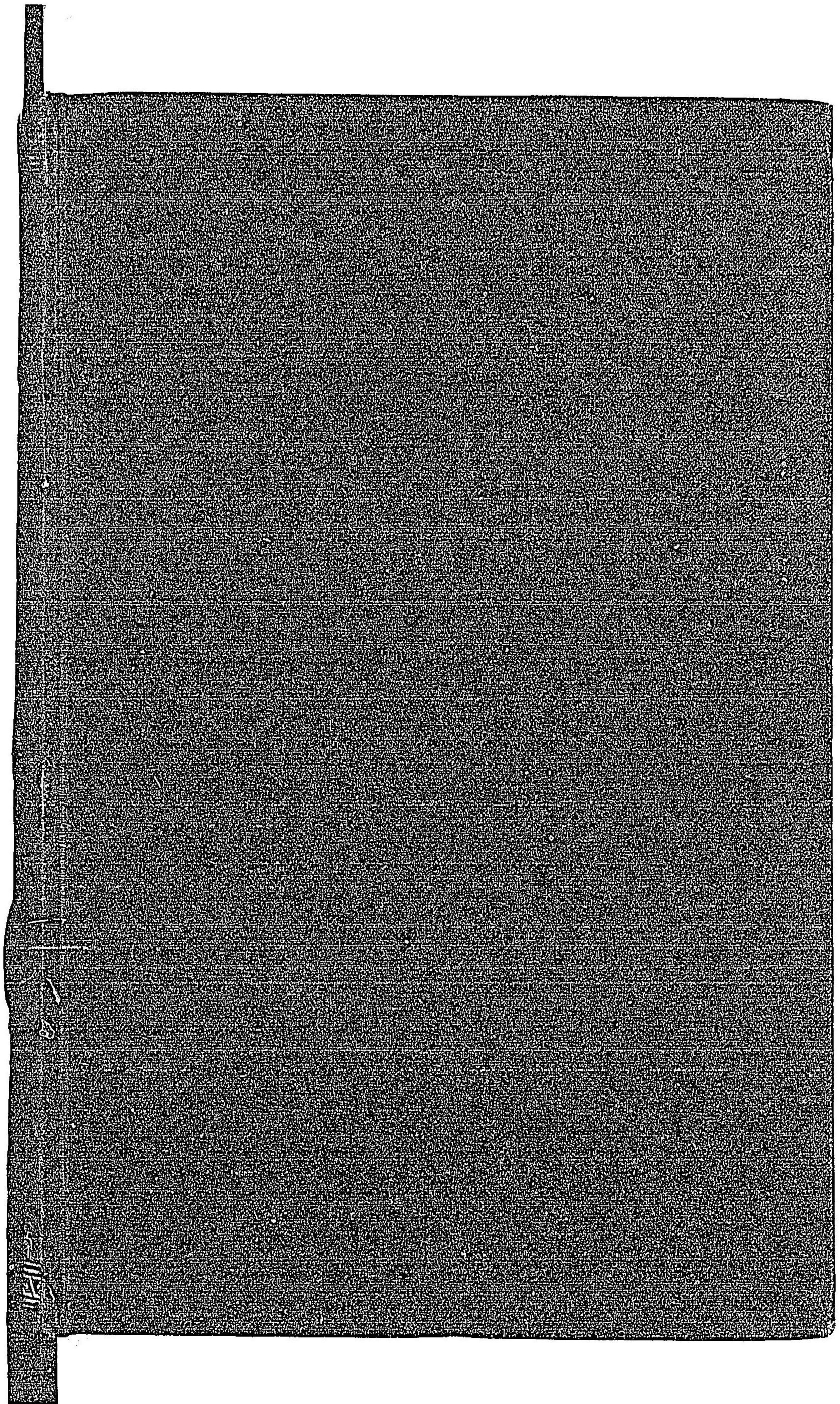


明治三十二年十二月十二日印刷
明治三十二年十二月十五日發行

發行所	發行所	發行所	印刷所	印刷者	發行者	著者	著者(法學士)
大倉書店	修學堂	服部書店	八尾活版所	新井豐造	辻本末吉	森惣之祐	中村和光
<small>東京日本橋區通一丁目</small>	<small>東京神田區表神保町</small>	<small>東京神田區表神保町</small>	<small>東京神田區表神保町</small>	<small>東京神田區錦町三丁目八番地</small>	<small>東京神田區錦町三丁目八番地</small>	<small>東京神田區表神保町十番地</small>	



85
90



85
90

036616-000-0

85-90

改正民事訴訟法釈義

中村 和光

森 惣之祐 / 著

M32

BBS-0034

